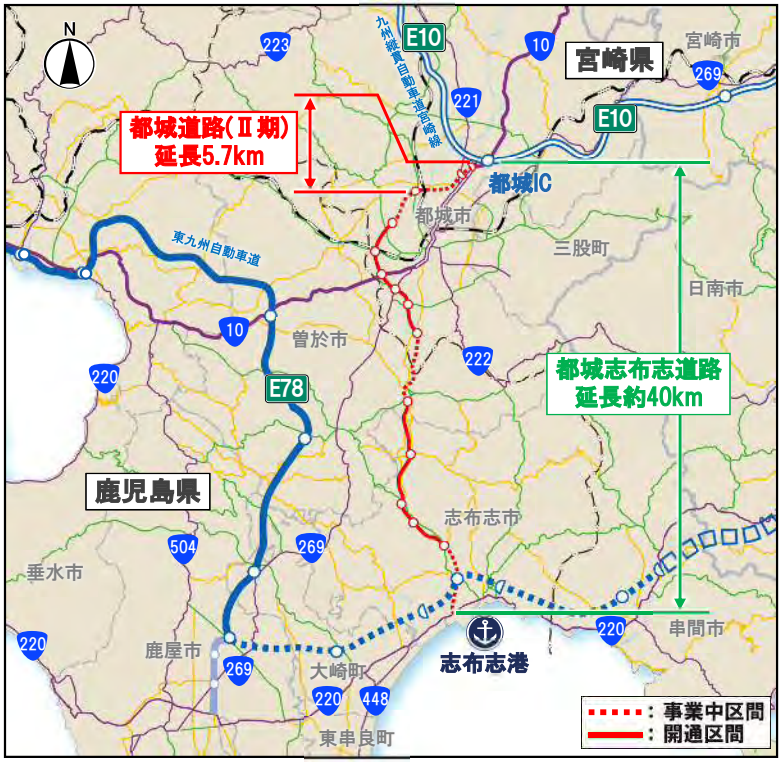
令和２年度　第１回
九州地方整備局　事業評価監視委員会

国道１０号
（都城志布志道路）
都城道路（Ⅱ期）
みやこのじょうどうろ



① 事業採択後３年経過して未着工の事業

② 事業採択後５年経過して継続中の事業

③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後３年経過した事業

④ 再評価実施後５年経過した事業

⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業

1. 目的・事業概要・これまでの経緯

◆目的

・**都城道路（Ⅱ期）は、地域高規格道路「都城志布志道路」の一部として、都城IC～志布志港を結ぶ広域ネットワークを形成するとともに、都城市街地の交通混雑緩和等を目的とした事業。**

◆事業概要

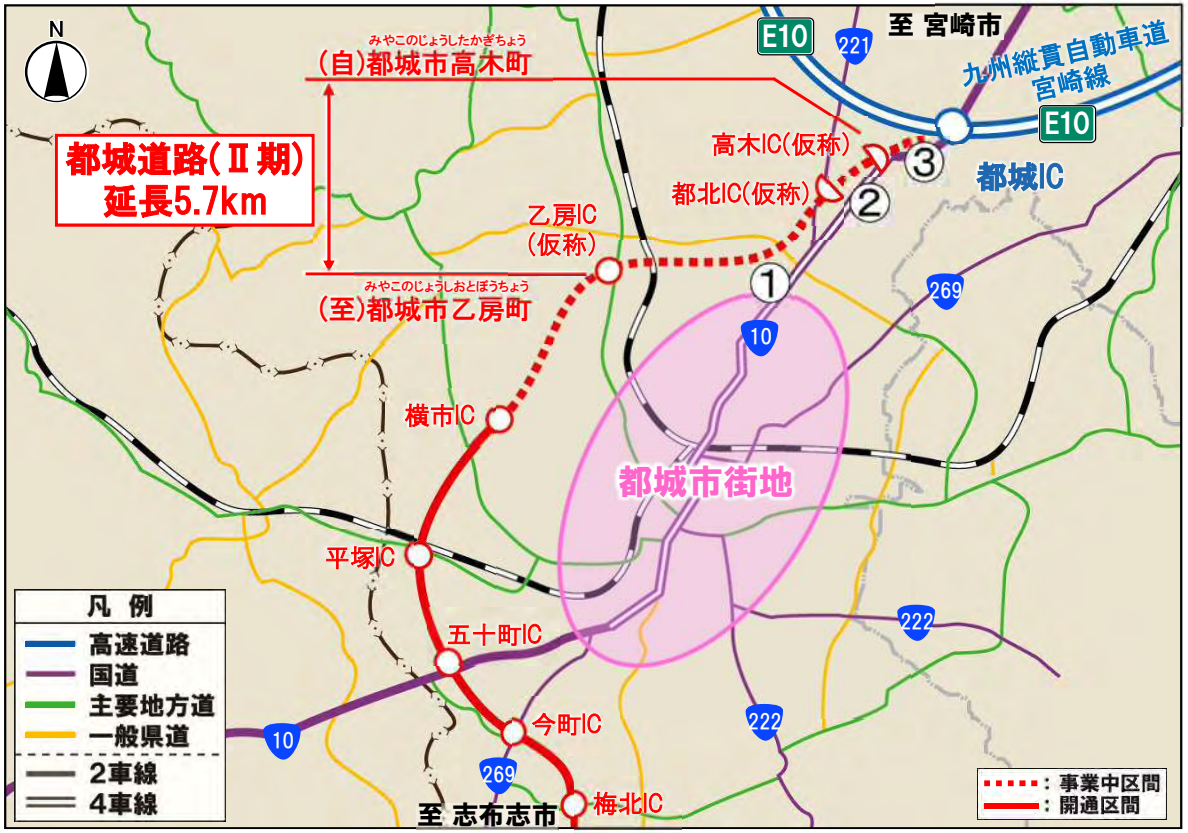
・**本事業は、完成4車線の自動車専用道路。**

計画延長等	5.7km（第1種第3級、設計速度80km/h）
幅　　員	20.5m（4車線）
計画交通量	①34,300台/日 ②19,600台/日 ③35,200台/日

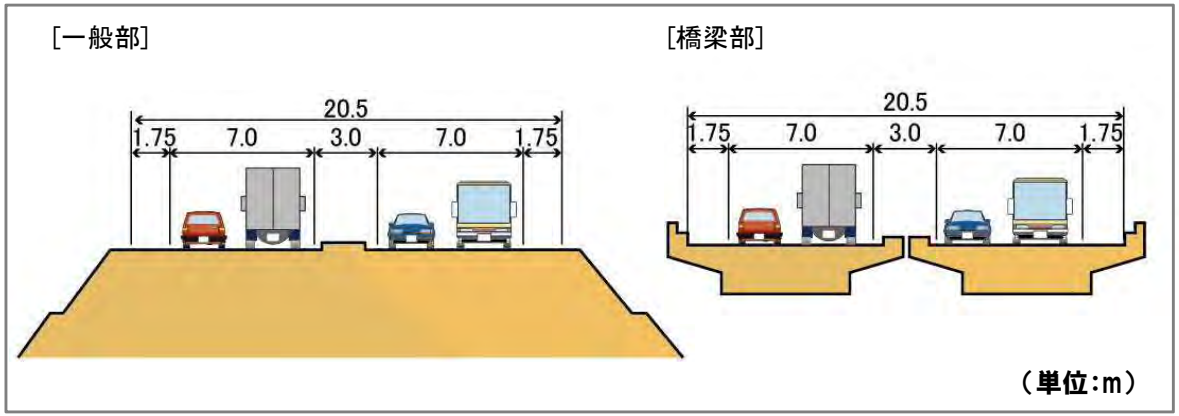
事業経緯

平成19年度	事業化、路線測量、地質調査
平成20年度	環境調査
平成21年度	道路設計
平成22年度	交差点設計、都市計画変更
平成23年度	内水解析調査
平成24年度	用地買収着手
平成28年度	工事着手（都北ＩＣ～乙房ＩＣ間）

※事業進捗率:約25%、用地進捗率:約98%



路線概要図

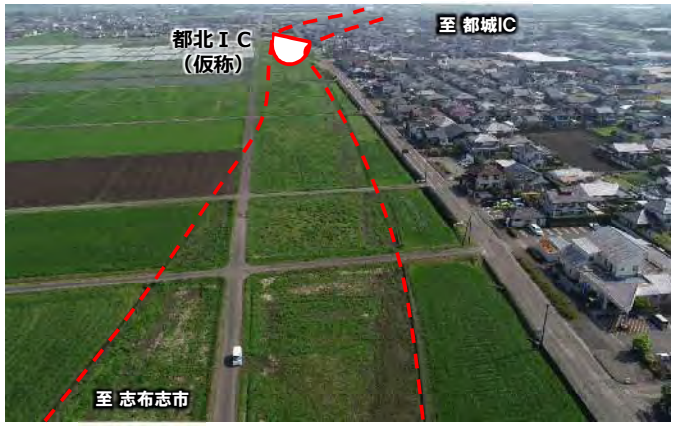


標準断面図

2. 事業の進捗状況(※全体)

○平成19年度に事業化、平成24年度から用地買収着手、平成28年度から都北IC(仮称)～乙房IC(仮称)間の工事に着手。

事業区間の状況



撮影：R2.3月時点

都北IC(仮称)付近：写真①

撮影：R2.3月時点

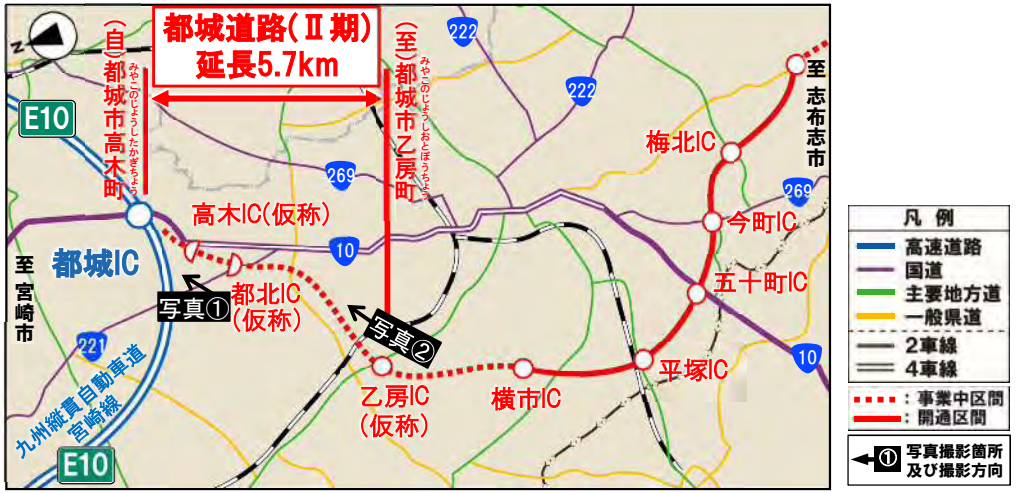
都北IC(仮称)～乙房IC(仮称)：写真②

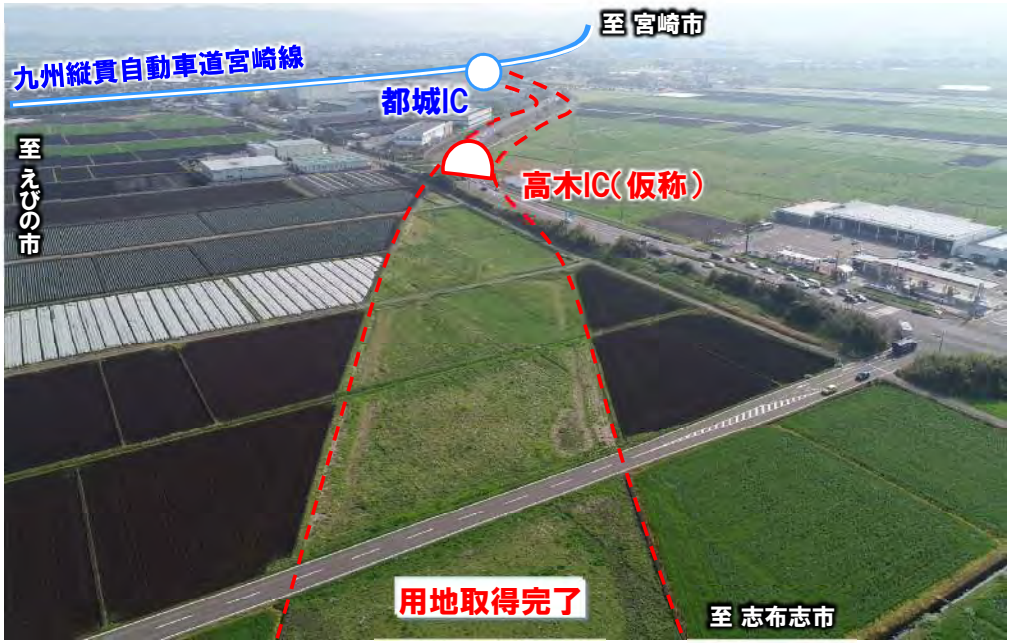
年度	都城IC～高木IC(仮称) (延長0.9km)	高木IC(仮称)～都北IC(仮称) (延長0.9km)	都北IC(仮称)～乙房IC(仮称) (延長3.9km)
H19	事業化、路線測量、地質調査		
H20	環境調査		
H21	道路設計		
H22	交差点設計、都市計画変更		
H23	内水解析調査		
H24	用 地 買 収 着 手		
H25			
H26			
H27			
H28			工事着手
H29		前回評価(H29)	
H30			
H31・R1			
R2	工事着手		

2. 事業の進捗状況(※前回以降の状況)

◆平成29年度以降の事業進捗状況

○平成29年度以降、橋梁及び改良工事を推進中。





撮影：R2.3月時点

高木IC(仮称)付近：写真①

撮影：R2.3月時点

都北IC(仮称)～乙房IC(仮称)：写真②

2. 事業の進捗状況（事業費の見直し） 1/5

【前回評価時:約160億円　→　今回評価時:258億円（事業費増額＋98億円）】

①地元・関係機関協議に伴う増加【約＋８９億円】

①-1 関係機関協議に伴う橋梁構造見直しによる増加（大淀川橋梁）【約＋３２億円】

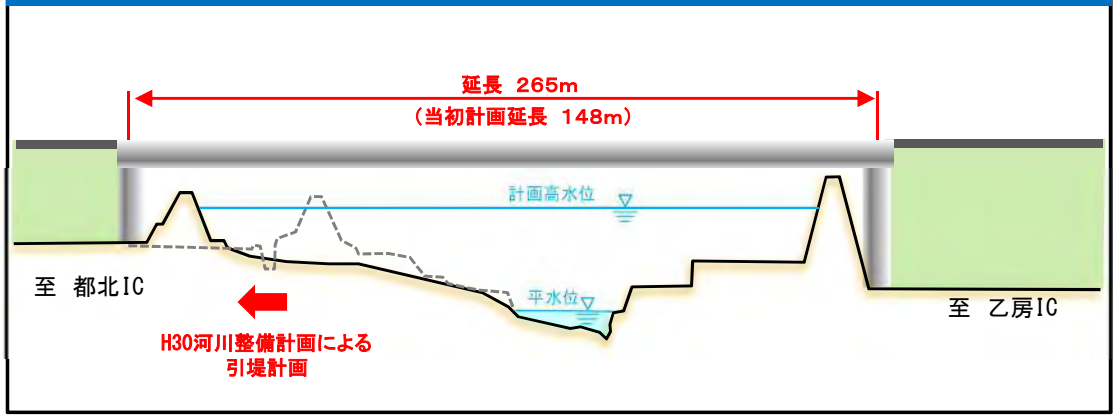
・H17年度に策定された大淀川の河川整備計画に基づき橋梁延長を計画していた。H30年度の河川整備計画変更に伴い、橋梁延長を148mから265mに変更する必要が生じた。

①-2 関係機関協議に伴う橋梁構造見直しによる増加（太郎坊橋梁）【約＋３０億円】

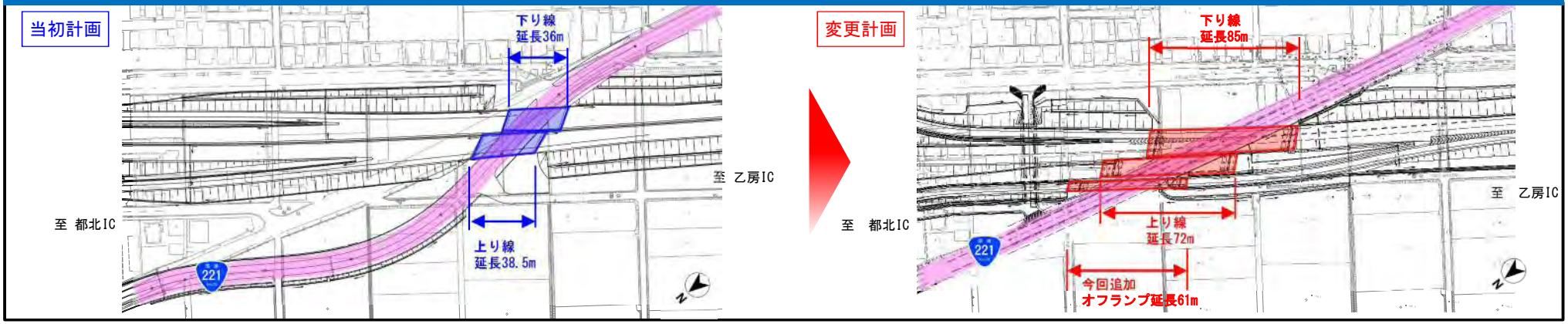
・国道221号の線形を都城道路の橋梁延長が最小限となるように計画していた。H29年度の公安委員会との協議の結果、国道221号の視認性向上のため現況の直線的な線形を維持することとなり、橋梁延長が上り線は38.5mから72m、下り線は36mから85mに変更となるとともに、オフランプ橋61mの追加が生じた。

位置図

【①-1橋梁構造の見直しによる増加(大淀川橋梁)】



【①-2橋梁構造の見直しによる増加(太郎坊橋梁)】

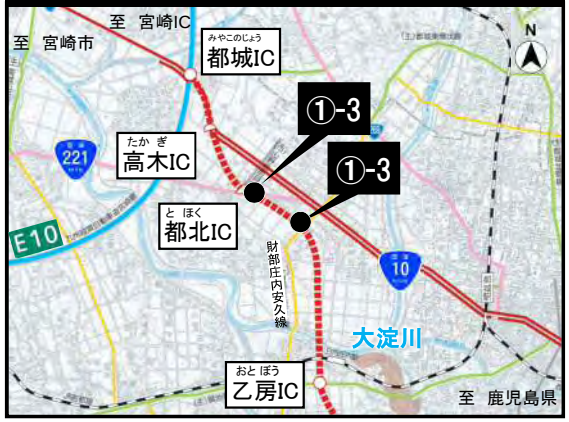


2. 事業の進捗状況(事業費の見直し) 2/5

①-3 農業用パイプラインの移設延長の増加【約＋１０億円】

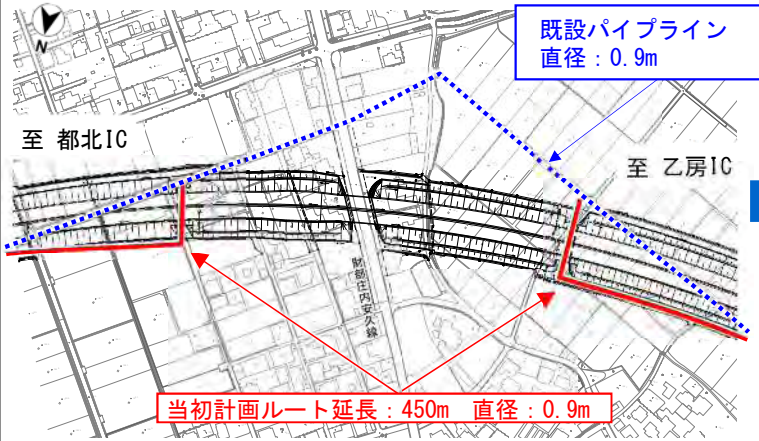
・支障となる農業用パイプラインは極力既設管を活用し、移設延長を短くするよう計画していた。R1年度の土地改良区との協議の結果、移設ルートの変更が生じ延長が450mから700mに増加した。また、都北ICにおいてH29年度の公安委員会との協議の中で、ON･OFFランプの近接による交差点間距離について指摘があり、IC形状を見直した結果、新たな移設が生じ移設延長が460m増加した。

位置図

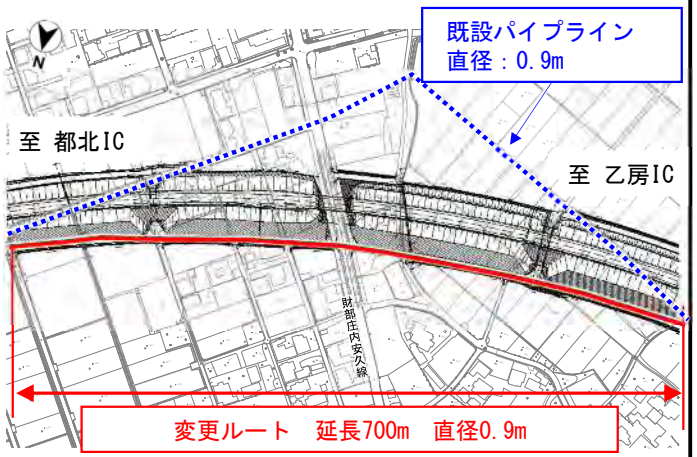


【①-3農業用パイプラインの移設延長の増加】

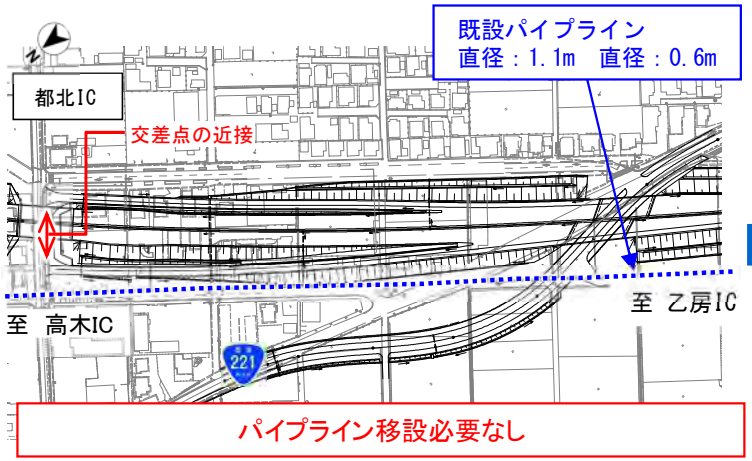
●既設管を活用し、移設延長を短くするルート(当初計画)



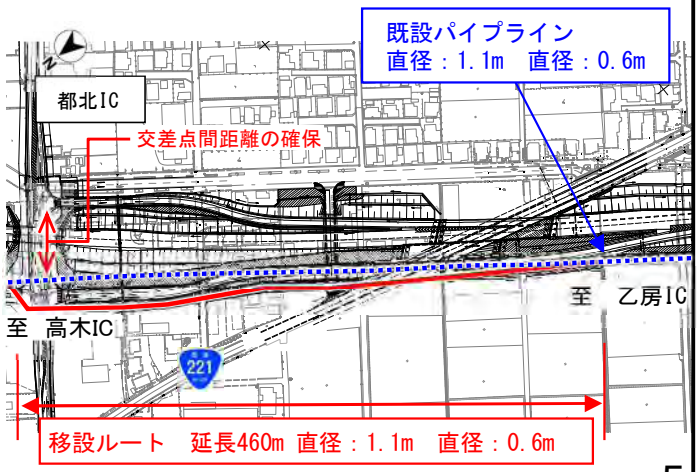
●水頭損失を極力少なくする移設ルートへ変更(今回計画)



●パイプラインに支障のないルート(当初計画)



●都北ICの形状見直しにより、新たな移設(今回計画)

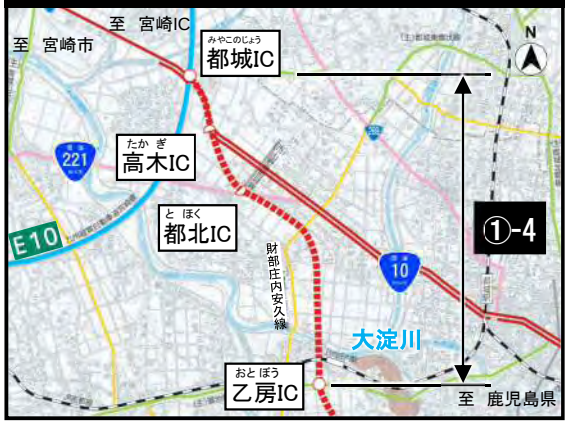


2. 事業の進捗状況（事業費の見直し） 3/5

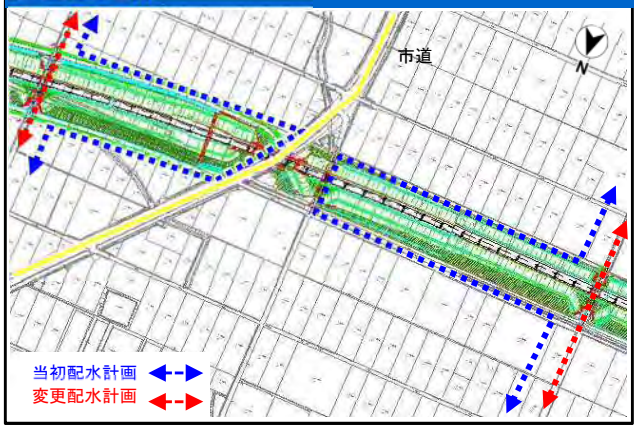
①-4 地元及び関係機関協議に伴う函渠の追加【約＋１７億円】

・横断箇所（函渠）を12箇所に集約し、機能復旧のための側道を整備するよう計画していた。H30年度の地元及び関係機関との協議の結果、農業用道路と生活道路の分離、農業用道路分断による作業効率の低下及び迂回した農業用配水路では流速低下による末端田畑の水量減少が懸念されることから、新たに8箇所の追加が必要となった。

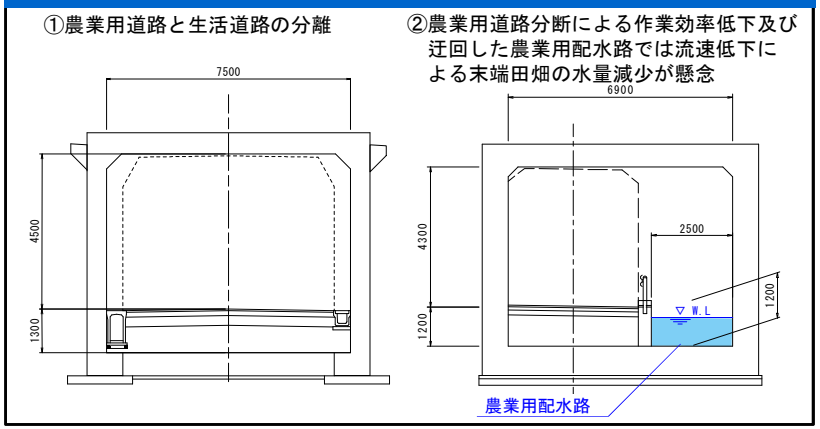
位置図



拡大図箇所

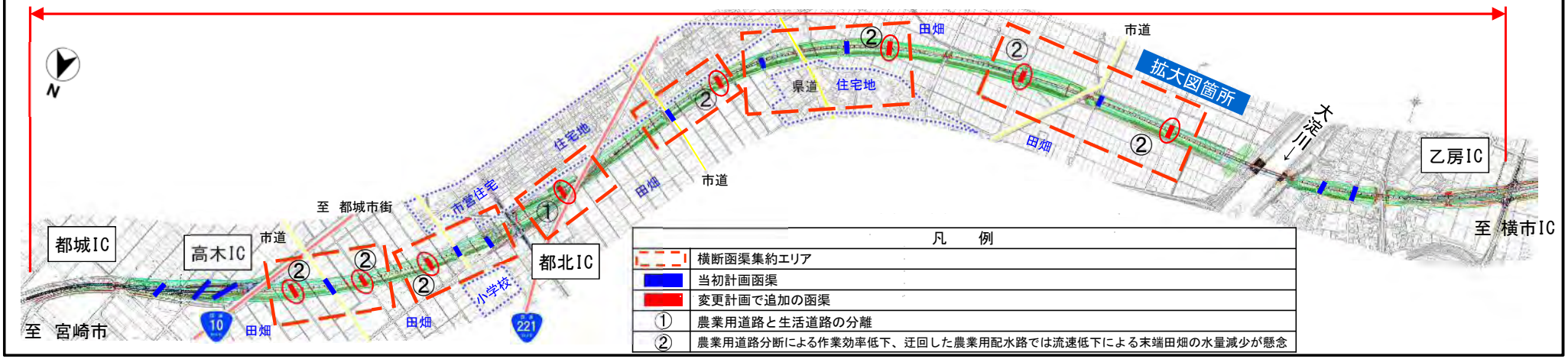


函渠断面図（代表断面）



【①-4地元及び関係機関協議に伴う函渠の追加】

今回対象範囲：延長5.7km（当初12箇所 延長415m ⇒ 今回20箇所 延長685m）

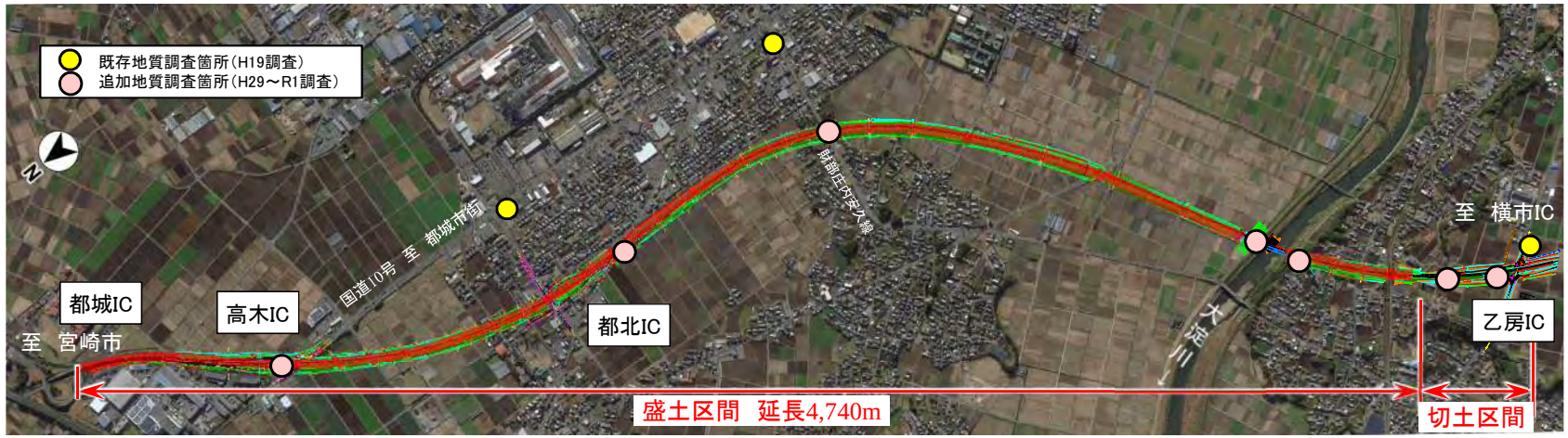


2. 事業の進捗状況(事業費の見直し) 4/5

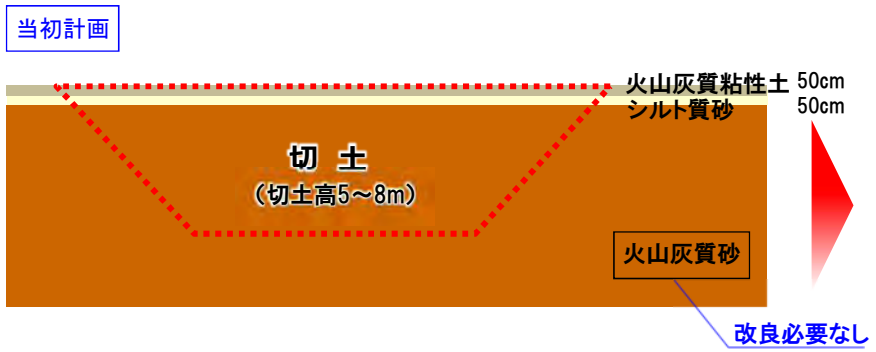
②盛土材の改良対策に伴う増加【約＋１０億円】

・既存の地質調査結果より、自工区(約10万m3)及び隣接工区(約17万m3)の切土工事による建設発生土(約27万m3)を盛土材として活用する計画であった。
用地買収が完了した箇所で地質調査を実施したところ、火山灰質粘性土層が当初想定以上に厚く確認されたため、H30年度に土質試験を実施。その結果、盛土施工に必要なトラフィカビリティーを確保できなかったため、盛土材(約27万m3)の改良（シラスとの攪拌混合処理）が必要となった。

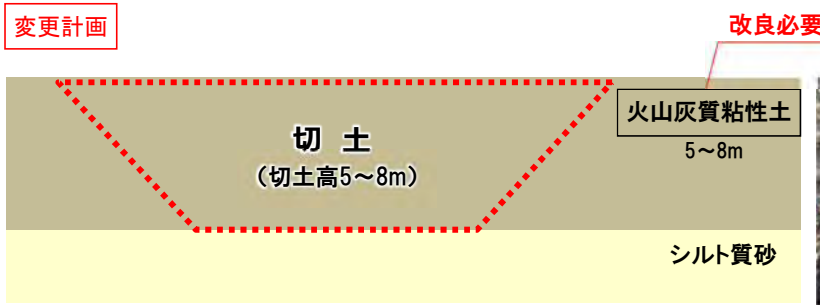
平面図



【① 盛土材の改良対策に伴う追加】



建設発生土はそのまま流用



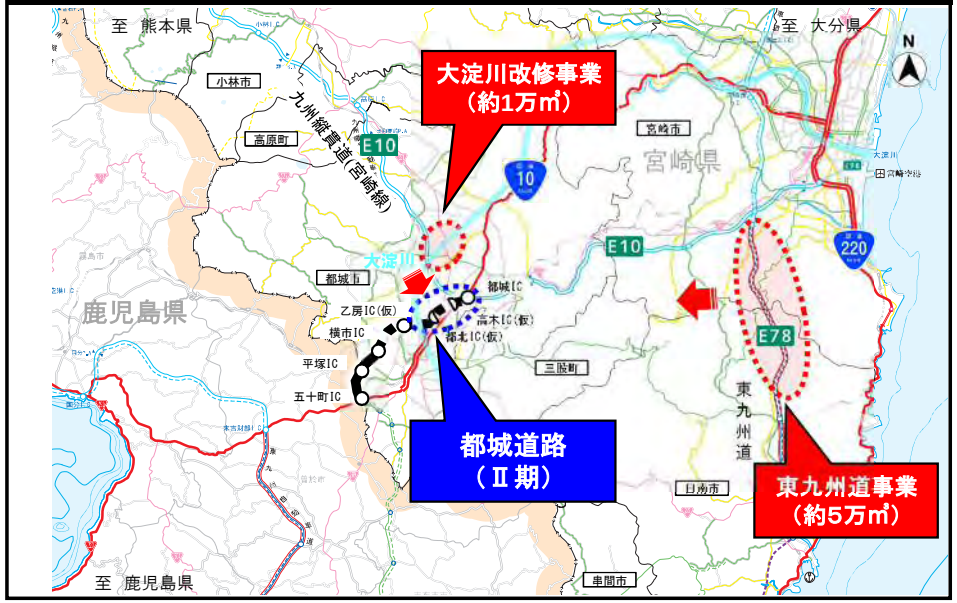
建設発生土をシラスと攪拌混合処理

2. 事業の進捗状況(事業費の見直し)コスト縮減　5/5

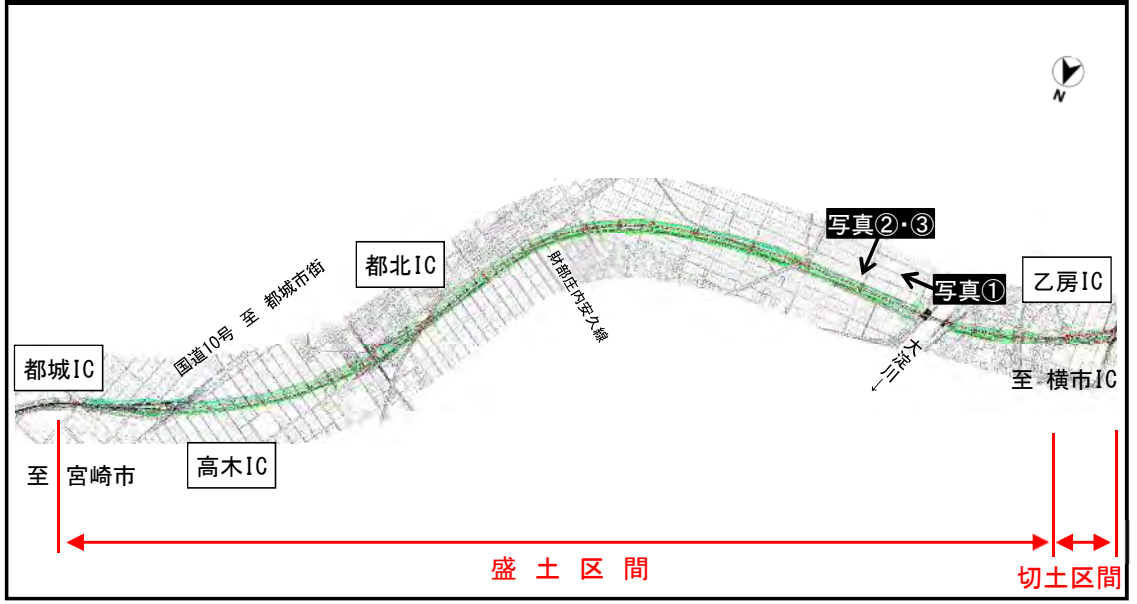
③他事業からの流用土活用によるコスト縮減【約－１億円】

・計画盛土量（約81万m3）のうち、不足する土量（約54万m3）については購入土として計画していた。大淀川改修事業（約1万m3）、東九州道事業（約5万m3）との調整の結果、他事業により発生する約6万m3の建設発生土が流用可能となり、約1億円のコスト縮減を図った。

位置図



平面図



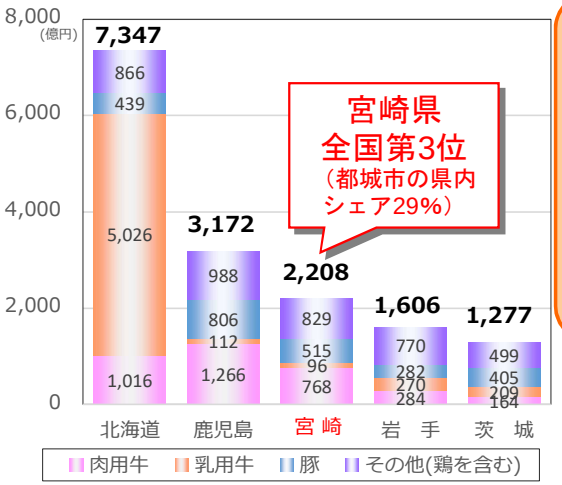
▲盛土状況(遠景)

▲盛土状況(近景)

▲盛土状況(近景)

3. 事業の効果・必要性（広域交通ネットワークの形成）

○九州最大の飼料ターミナルを形成している志布志港からは、全国有数の畜産地域である都城市に向け多くの配合飼料が輸送されており、地域の畜産業を支えている。
○都城志布志道路の整備により、広域ネットワークが形成され、円滑な輸送が実現し、畜産業の更なる振興が期待される。



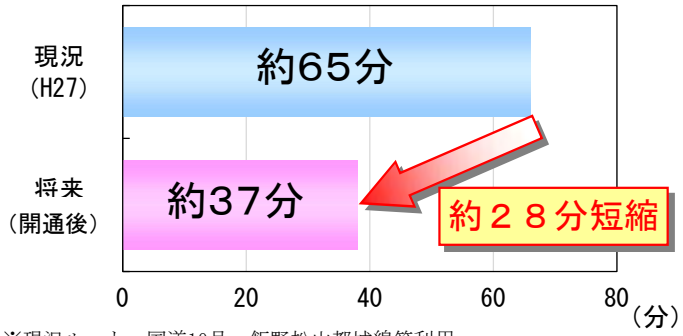
宮崎県
全国第3位
（都城市の県内シェア29%）

資料：生産農業所得統計（H30年）

▲ 畜産の産出額（全国上位5位）

・輸送距離及び運転時間の短縮により、ドライバーの負担が軽減すると考えられる。
・また、輸送時間の短縮で運送回数が増えるため、輸送の効率化が期待できる。

（トラック協会ヒアリング：R2.4）

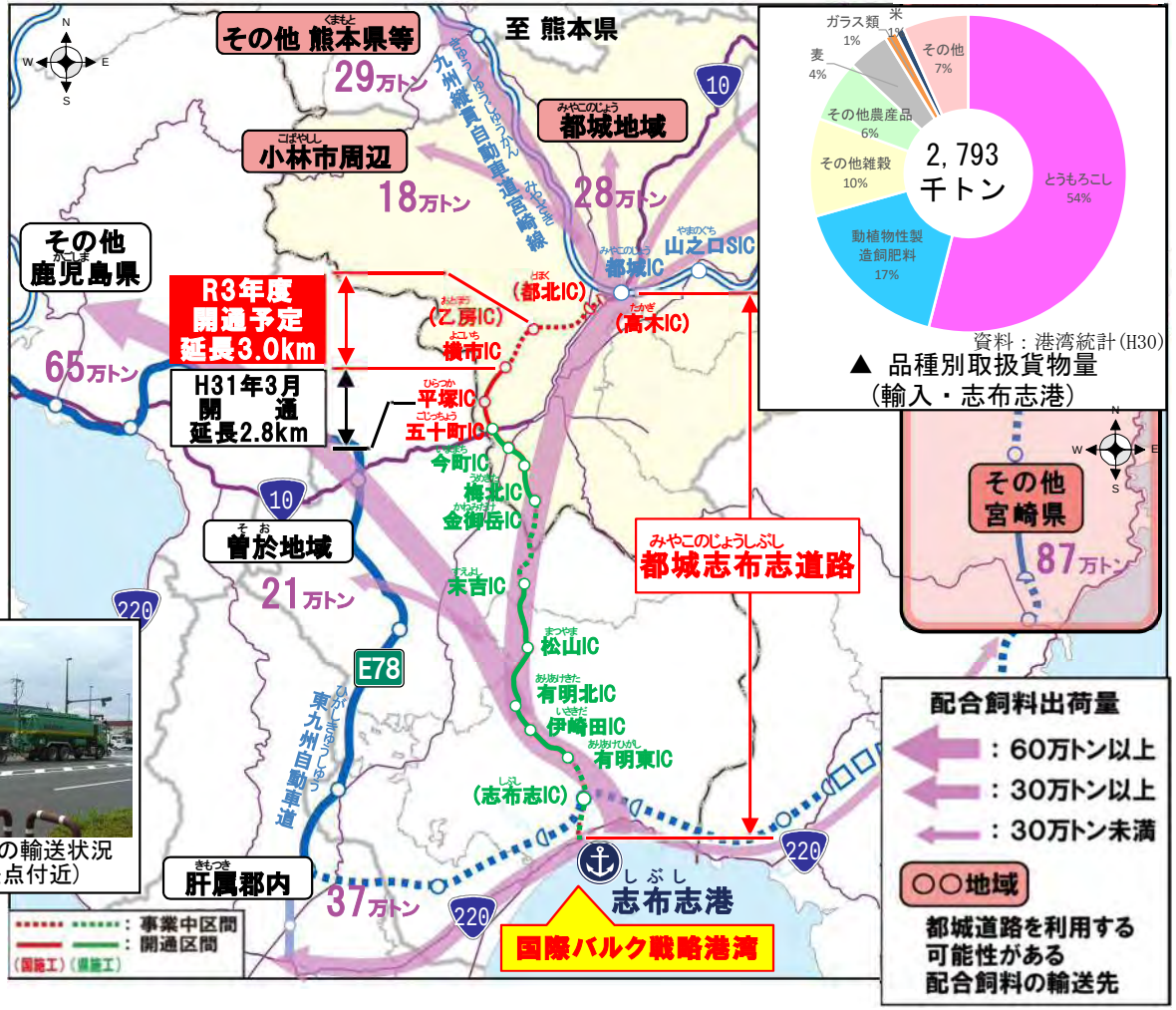


※現況ルート：国道10号・飯野松山都城線等利用
※都城志布志道路は設計速度、有明北IC～末吉IC間およびその他の道路は平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査の混雑時旅行速度を用いて所要時間を算出。

資料：平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査

▲ 所要時間の変化（都城IC～志布志港間）

▲ 配合飼料の輸送状況（都北交差点付近）



資料：港湾統計（H30）

▲ 品種別取扱貨物量（輸入・志布志港）

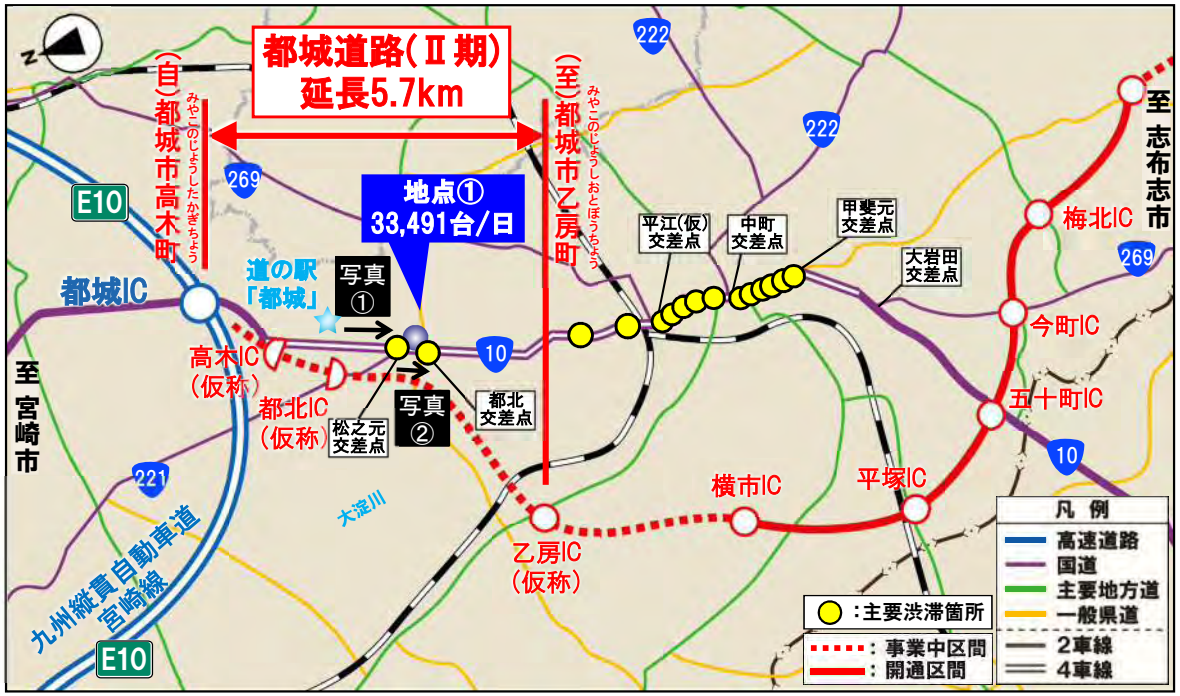
※国際バルク戦略港湾：国際バルク貨物（鉄鉱石、石炭、穀物）の安価かつ安定的な輸送を実現し、我が国産業の国際競争力を強化するため、船舶大型化等に対し集中的に整備する港湾

▲ 志布志港からの配合飼料の輸送先（H30年度）

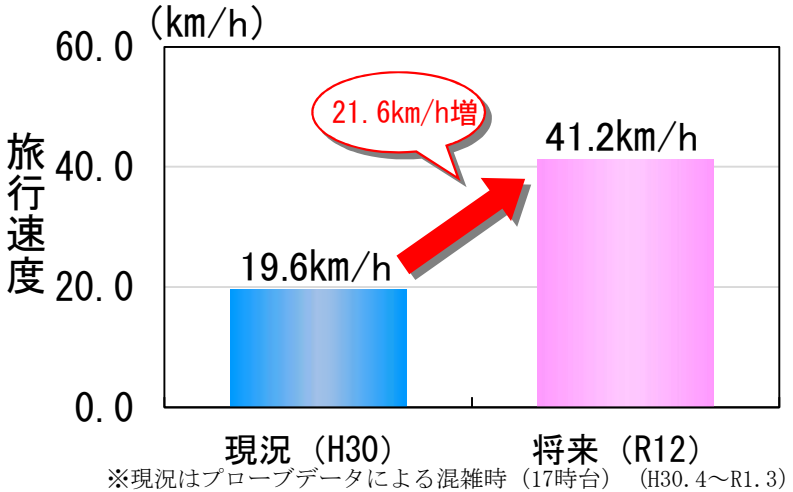
資料：志布志市提供資料

3. 事業の効果・必要性（交通混雑の緩和）

○並行する国道10号は主要渋滞箇所が存在し、慢性的な速度低下が発生。
○本路線の整備により、国道10号の交通が転換することで、都城市街地部の交通混雑の緩和が期待される。

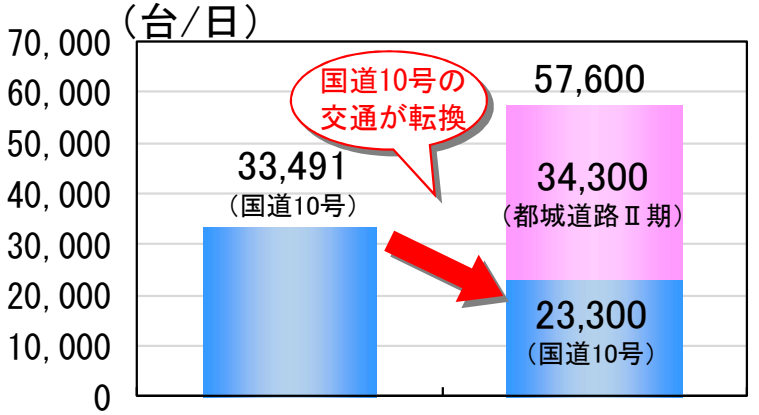


▲ 国道10号（並行現道）の交通状況



※現況はプローブデータによる混雑時（17時台）（H30.4～R1.3）
※将来は、交通量推計結果
※道の駅都城交差点～都北交差点区間
資料：プローブデータ（H30.4～H31.3）、交通量推計結果（R12）

▲ 旅行速度の変化

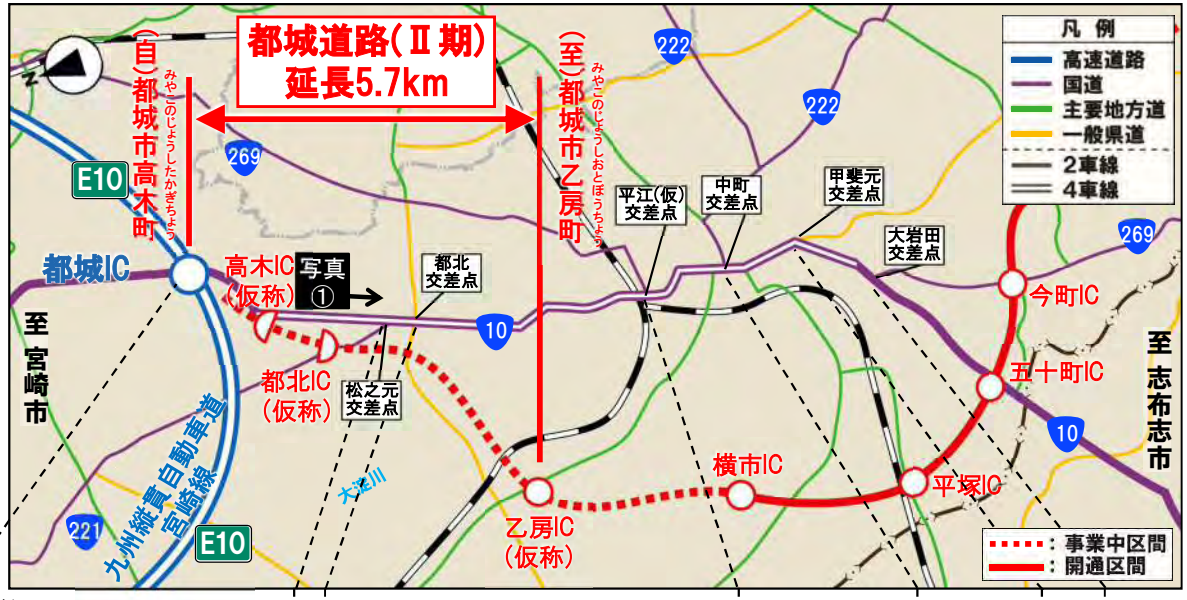


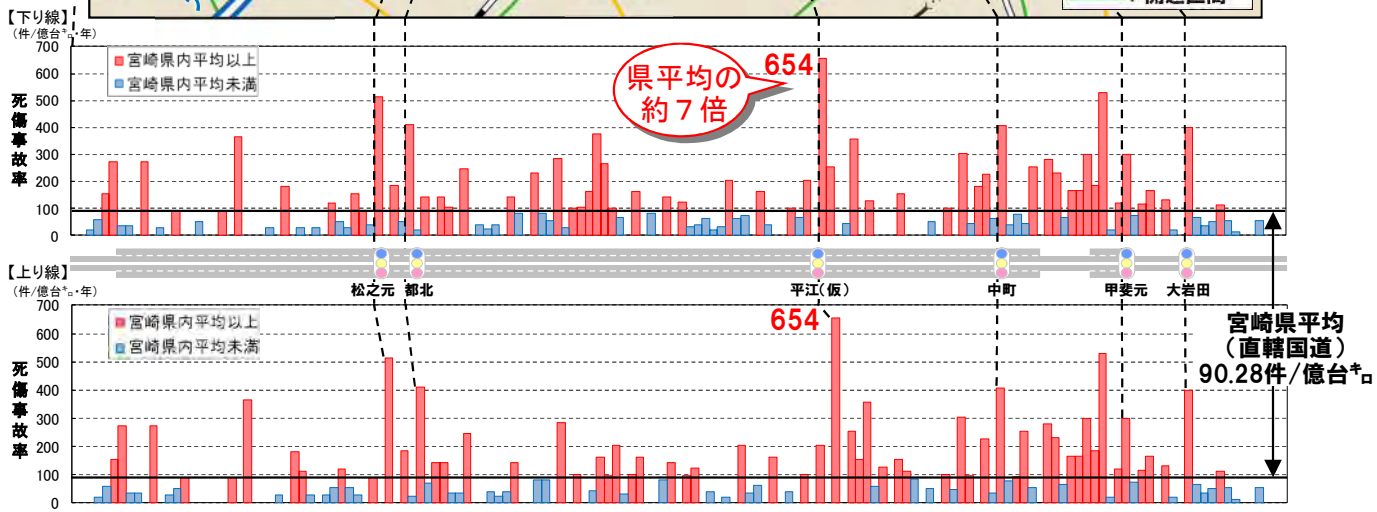
資料：【現況】平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査
【将来】交通量推計結果（R12）

▲ 交通量の変化（地点①）

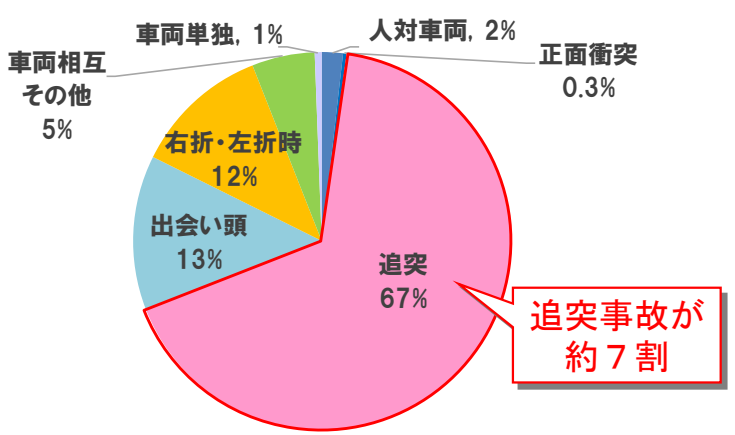
3. 事業の効果・必要性（交通安全性の向上）

○並行する国道10号では、交通渋滞が原因と想定される追突事故が多く、死傷事故率は県直轄国道平均と比べ約7倍と高い。
○本路線の整備により、現道の交通量が転換することで、交通渋滞が緩和され、交通安全の向上が期待される。





▲ 国道10号（並行現道）の死傷事故率　資料：交通事故統合データベース（H27～H30の4年平均）



資料：交通事故統合データベース（H27～H30）

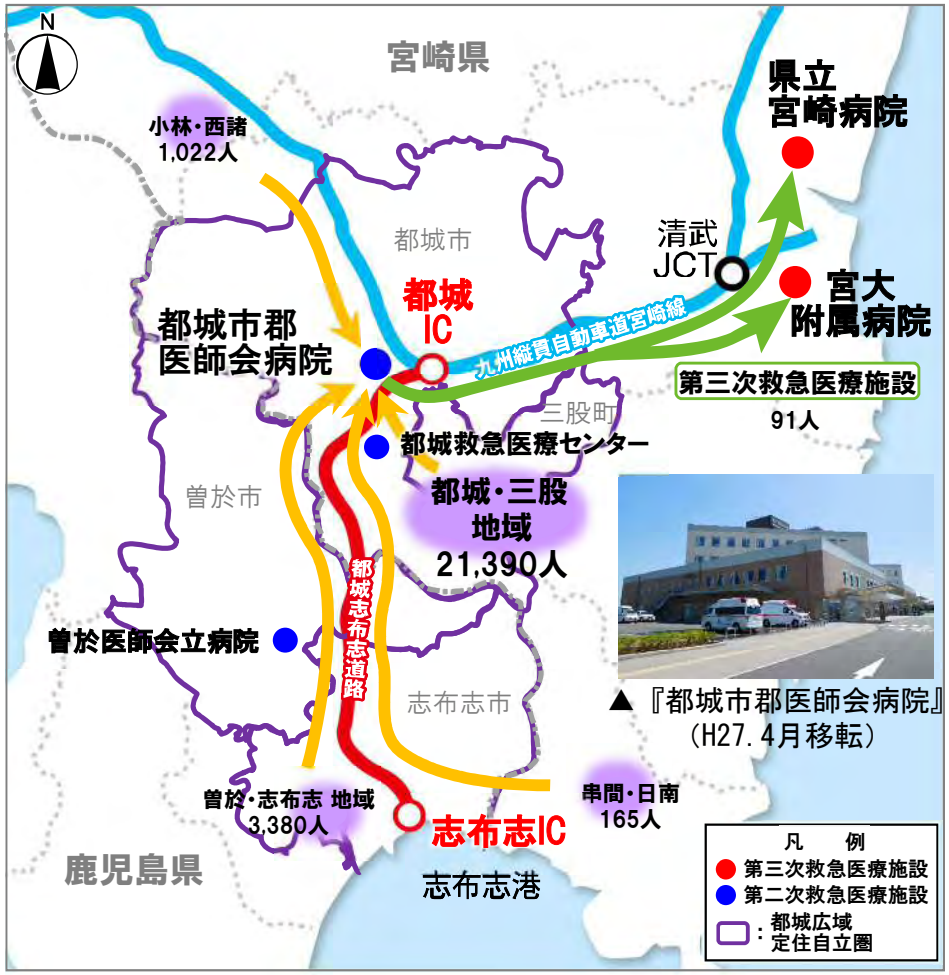
▲ 国道10号（並行現道）の事故類型

▲ 国道10号（並行現道）の現状（写真①）

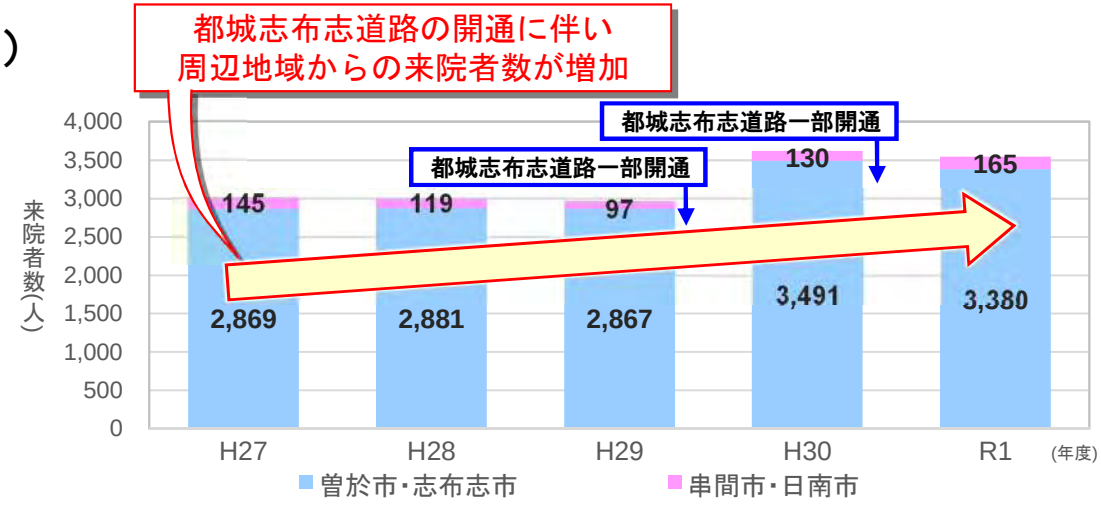
3. 事業の効果・必要性（広域的な医療活動の支援）

○都城市を中心として、三股町、曽於市、志布志市は「都城広域定住自立圏」を形成。
○曽於市・志布志市等の周辺市からの都城市郡医師会病院への外来来院者数は、都城志布志道路の整備に伴い、増加傾向にある。
○都城志布志道路の全線開通により広域ネットワークが形成され、「都城広域定住自立圏」における高次医療施設へのアクセス強化や医療連携の強化が期待される。

◆都城市郡医師会病院への来院・搬送状況（R元年度）

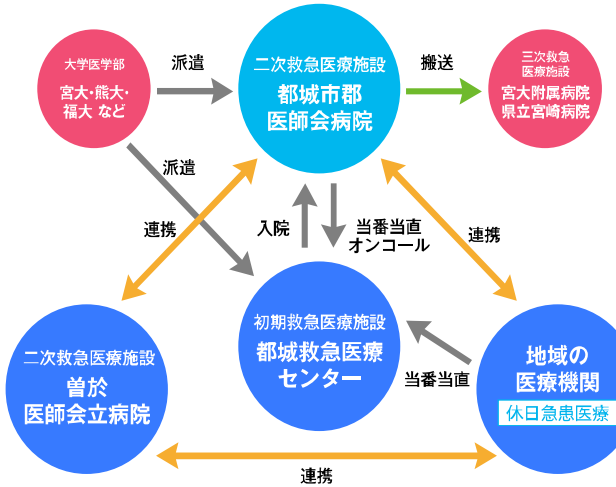


▲『都城市郡医師会病院』
（H27.4月移転）



▲曽於・志布志・串間・日南から医師会病院への来院者数の推移

資料：都城市提供資料



▲医療連携イメージ図

・都城北諸県医療圏のほかに、隣県の曽於・志布志医療圏からも多くの患者が来院し、当院が医療サービスの拠点となっています。
・都城道路の開通により、ドクターカー運用の効率化や通院がしやすくなるなど、救命率の向上や早期加療による重症化防止に期待しています。

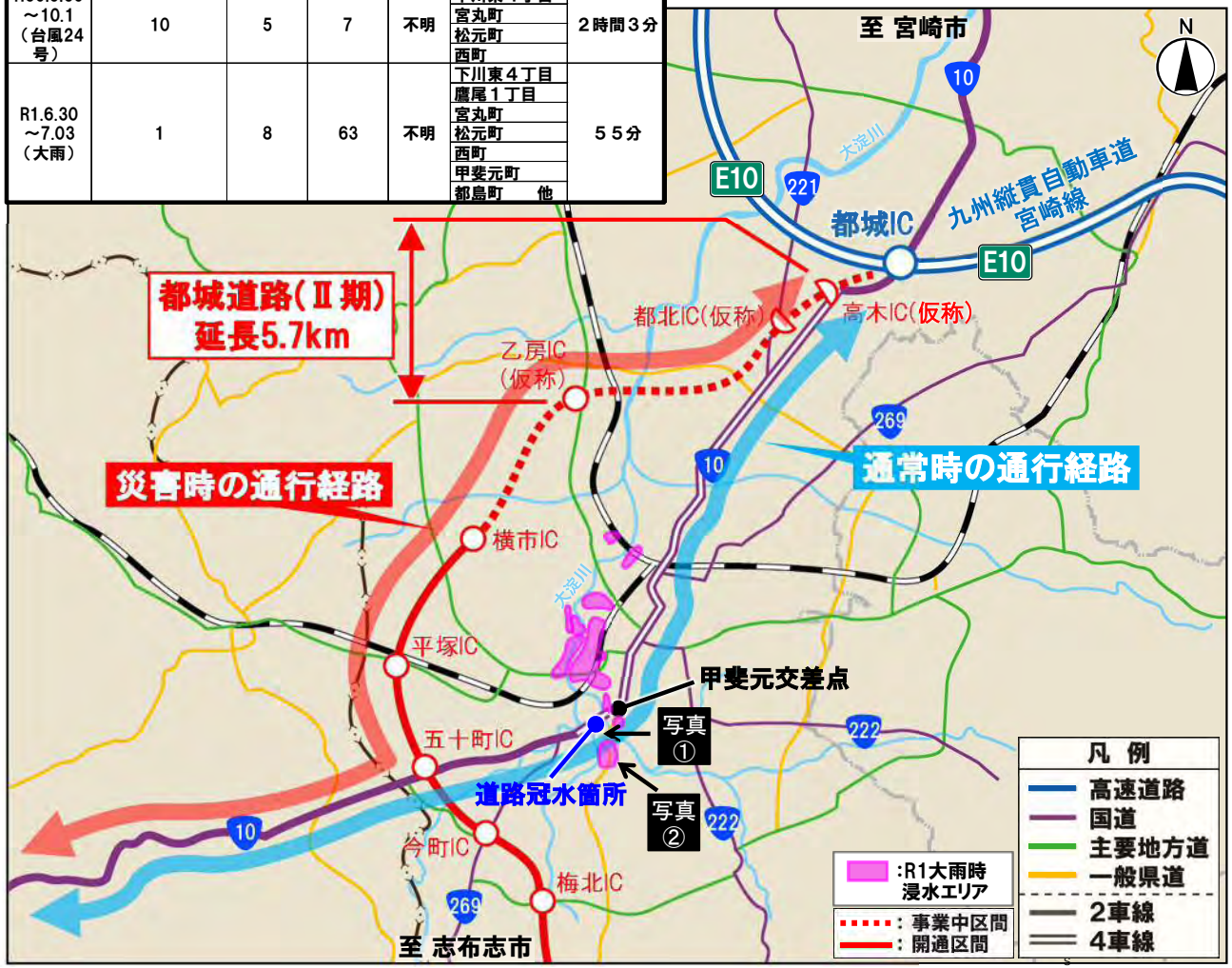
（都城市郡医師会病院ヒアリング：R2.6）

3. 事業の効果・必要性（リダンダンシーの確保）

○国道10号は近年、台風等の豪雨時に道路が冠水し、通行止めが発生。
○本路線の整備により、冠水時に迂回ルートが確保されることで、国道10号を鹿児島方面から宮崎市方面へ通過する交通の代替路として機能することが期待される。

近年災害状況

災害発生年月日	被害状況（世帯） 一部損壊・半壊	床上浸水	床下浸水	被害額	被災場所	国道10号通行止め時
H30.9.30～10.1（台風24号）	10	5	7	不明	下川東４丁目 宮丸町 松元町 西町	２時間３分
R1.6.30～7.03（大雨）	1	8	63	不明	下川東４丁目 鷹尾１丁目 宮丸町 松元町 西町 甲斐元町 都島町　他	５５分



▲ 国道10号の災害状況

資料：都城市資料

▲ R1大雨による冠水状況

▲ 冠水時の救助活動状況

・大雨等災害時には、大淀川の増水により幹線道路の分断が多発している。
・都城道路Ⅱ期は、今後大雨等による浸水被害が発生し、国道10号が通行止めになった時の代替路線となり、道路利用者の安全確保に期待できる。

（都城市役所ヒアリング：R2.4）

4. 事業の効果・必要性（まとめ）

≪効果名≫	【効果の概要】
①走行時間短縮便益、走行費用減少便益、交通事故減少便益	489億円
②広域交通ネットワークの形成	・都城志布志道路の整備により、広域ネットワークが形成され、円滑な輸送が実現し、畜産業の更なる振興が期待される。
③交通混雑の緩和	・都城道路（Ⅱ期）の整備により、国道10号の交通が転換することで、都城市街地部の交通混雑の緩和が期待される。
④交通安全性の向上	・都城道路（Ⅱ期）の整備により、現道の交通量が転換することで、交通渋滞が緩和され、交通安全の向上が期待される。
⑤広域的な医療活動の支援	・都城志布志道路の全線開通により広域ネットワークが形成され、「都城広域定住自立圏」における、高次医療施設へのアクセス強化や医療連携の強化が期待される。
⑥リダンダンシーの確保	・都城道路（Ⅱ期）の整備により、甲斐元地区等の冠水時に迂回ルートが確保され、国道10号を宮崎市方面へ通過する交通の代替路として機能することが期待される。
⑦費用便益分析（算定に用いた効果①）	事業全体　：1．9 残事業　　：3．2

５．対応方針（原案）

○都城道路（Ⅱ期）は、地域高規格道路「都城志布志道路」の一部として、**都城IC～志布志港を結ぶ広域ネットワークを形成**するとともに、**都城市街地の交通混雑緩和**等を目的とした事業である。

○**費用対効果についても確保されている事業**である。

○事業進捗率は、**事業費ベースで約25％［約65億円/約258億円］（令和元年度末）**であり、**用地進捗率は約98％**となっている。

○なお、都城市が地元協議の連絡調整を行うなど、**地元自治体等からの支援も頂いており、今後の円滑な事業執行が可能**である。

○よって、当該事業の完成に向けて、**事業を継続することとしたい。**

巻　末　資　料

様式１　客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	地域高規格道路　都城志布志道路 一般国道10号　都城道路（Ⅱ期）
事業主体	九州地方整備局

●事業採択の前提条件を確認するための指標

		指　標	指標チェックの根拠
前提条件	事業の効率性	■ 便益が費用を上回っている	全事業：費用便益比（B/C）=1.9　（経済的純現在価値（B-C）=233億円）、経済的内部収益率（EIRR）=7.8%） 残事業：費用便益比（B/C）=3.2　（経済的純現在価値（B-C）=337億円）、経済的内部収益率（EIRR）=13.7%）

●事業の効果や必要性を評価するための指標

政策目標		指　標　（対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは□を■に変更）	指標チェックの根拠
1　活力	円滑なモビリティの確保	■ 現道等の年間渋滞損失時間及び削減率	区間b（当該区間／並行区間）について：（該当区間名）国道10号（都城市高木町～都城市都北町） 並行区間等の渋滞損失時間　10.8万人・時間/年 並行区間等の渋滞損失削減率　約7割削減
		■ 現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される	並行現道（国道10号）の旅行速度改善 （都北交差点周辺　約21.6km/h向上［整備前19.6km/h⇒整備後41.2km/h］）
		□ 現道又は並行区間等における踏切交通遮断量が10,000台時/日以上の踏切道の除却もしくは交通改善が期待される	
		□ 現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する	
		□ 新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる	
		□ 第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる	
	物流効率化の支援	■ 重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる	都城IC⇔志布志港（重要港湾） 約28分短縮［整備前約65分⇒整備後約37分］
		■ 農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性が向上	畜産産出額が全国3位の宮崎県において都城市等への畜産飼料の運搬を支援 志布志港⇔都城IC 約28分短縮［整備前約65分⇒整備後約37分］ 宮崎・都城方面から志布志港への木材の運搬を支援 都城林産物流通センター⇔志布志港 約27分短縮［整備前約65分⇒整備後約38分］
		□ 現道等における、総重量25tの車両もしくはISO規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間を解消する	

1．活力	都市の再生	□ 都市再生プロジェクトを支援する事業である	
		■ 広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する	都城志布志道路は「広域道路整備基本計画（宮崎の道路）」に位置づけられており、環状道路を形成する
		□ 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり	
		□ 中心市街地内で行う事業である	
		□ 幹線都市計画道路網密度が1.5km/km2以下である市街地内での事業である	
		□ DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する	
		□ 対象区間が現在連絡道路がない住宅宅地開発（300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha以上）への連絡道路となる	
	国土・地域ネットワークの構築	□ 高速自動車国道と並行する自専道（A`路線）としての位置づけ有り	
		■ 地域高規格道路の位置づけあり	地域高規格道路　都城志布志道路
		□ 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する	
		□ 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する	
		□ 現道等における交通不能区間を解消する	
		□ 現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する	
		□ 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる	
	個性ある地域の形成	□ 鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消する	
		□ 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する	
		■ 主要な観光地へのアクセス向上が期待される	アクセス向上が期待される観光地：関之尾の滝 （都城IC⇒関之尾の滝　約7分短縮［整備前約25分⇒整備後約18分］
		□ 新規整備の公共公益施設へ直結する道路である	
2．暮らし	歩行者・自転車のための生活空間の形成	□ 自転車交通量が500台/日以上、自動車交通量が1,000台/12h以上、歩行者交通量が500人/日以上の全てに該当する区間において、自転車利用空間を整備することにより、当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安全性の向上が期待できる	
		□ 交通バリアフリー法における道路特定事業に位置付けがある、または、交通バリアフリー法に基づく重点整備地区における特定経路を形成する区間が新たにバリアフリー化される	
	無電柱化による美しい町並みの形成	□ 対象区間が電線類地中化５ヶ年計画に位置づけ有り	
		□ 市街地又は歴史景観地区（歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区）の幹線道路において新たに無電柱化を達成する	
	安全で安心できるくらしの確保	□ 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる	

3．安全	安全な生活環境の確保	■ 現道等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存する場合において、交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる	事業実施前後の現道における死傷事故率、500件/億台キロ以上である区間・箇所（3箇所：最大654件／億台キロ，国道10号都城市高木町～都城市五十町）
		□ 当該区間の自動車交通量が1,000台/12h以上（当該区間が通学路である場合は500台/12h以上）かつ歩行者交通量100人/日以上（当該区間が通学路である場合は学童、園児が40人/日以上）の場合、又は歩行者交通量500人/日以上の場合において、歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置される	
	災害への備え	□ 近隣市へのルートが１つしかなく、災害による１～２箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する	
		■ 対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業五ヶ年計画に位置づけのある路線（以下「緊急輸送道路」という）として位置づけあり	当該区間は未供用であるが、第1次緊急輸送道路ネットワークに位置づけられている
		■ 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する	代替する緊急輸送道路：国道10号（第一次ネットワーク）、代替する区間：都城市高木町～都城市五十町
		□ 並行する高速ネットワークの代替路線として機能する（A'路線としての位置づけがある場合）	
		□ 現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは架替の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消される	
		□ 現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する	
4．環境	地球環境の保全	● 対象道路の整備により削減される自動車からのCO_2排出量	CO_2排出削減量：928ｔ-CO_2/年　（全事業・残事業）
	生活環境の改善・保全	● 現道等における自動車からのNO_x排出削減率	評価対象区間（現道）：国道10号（都城市高木町～都城市都北町） 排出削減量：7.4ｔ-NOx／年、排出削減率：約5割削減　（全事業・残事業）
		● 現道等における自動車からのSPM排出削減率	評価対象区間（現道）：国道10号（都城市高木町～都城市都北町） 排出削減量：0.4ｔ-SPM／年、排出削減率：約5割削減　（全事業・残事業）
		□ 現道等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある	
		□ その他、環境や景観上の効果が期待される	
5．その他	他のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄとの関係	□ 関連する大規模道路事業と一体的に整備する必要あり	
		□ 他機関との連携プログラムに位置づけられている	
		□ その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が期待される	

様式－２

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・ＢＰ・その他の別
一般国道10号	都城道路（Ⅱ期）	5.7km	地域高規格	ＢＰ

計画交通量（台/日）	車線数	事業主体
19,600～35,200	4	九州地方整備局

① 費　用

	事　業　費	維持管理費	合　　計
基 準 年	令和2年度		
単純合計	237億円	75億円	311億円
うち残事業分	140億円	75億円	214億円
基準年における現在価値（C）	229億円	27億円	256億円
うち残事業分	125億円	27億円	152億円

② 便　益

	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	合　　計
基 準 年	令和2年度			
供 用 年	令和7年度、令和12年度			
単年便益（初年便益）	8.5億円	7.9億円	2.4億円	19億円
基準年における現在価値（B）	285億円	131億円	73億円	489億円
うち残事業分	285億円	131億円	73億円	489億円

③ 結　果

費用便益比（事業全体）	1.9
経済的純現在価値（事業全体）	233億円
経済的内部収益率（事業全体）	7.8%
費用便益比（残事業）	3.2
経済的純現在価値（残事業）	337億円
経済的内部収益率（残事業）	13.7%

注）費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感 度 分 析

【事業全体】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B／C）
交通量	19,600～35,200	±10%	1.7 ～ 2.1
事業費	237億円	±10%	1.8 ～ 2.0
事業期間	23年	±20%	1.8 ～ 2.0

【残事業】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B／C）
交通量	19,600～35,200	±10%	2.9 ～ 3.5
事業費	140億円	±10%	3.0 ～ 3.5
事業期間	9年	±20%	3.0 ～ 3.3

様式－３①

交通状況の変化

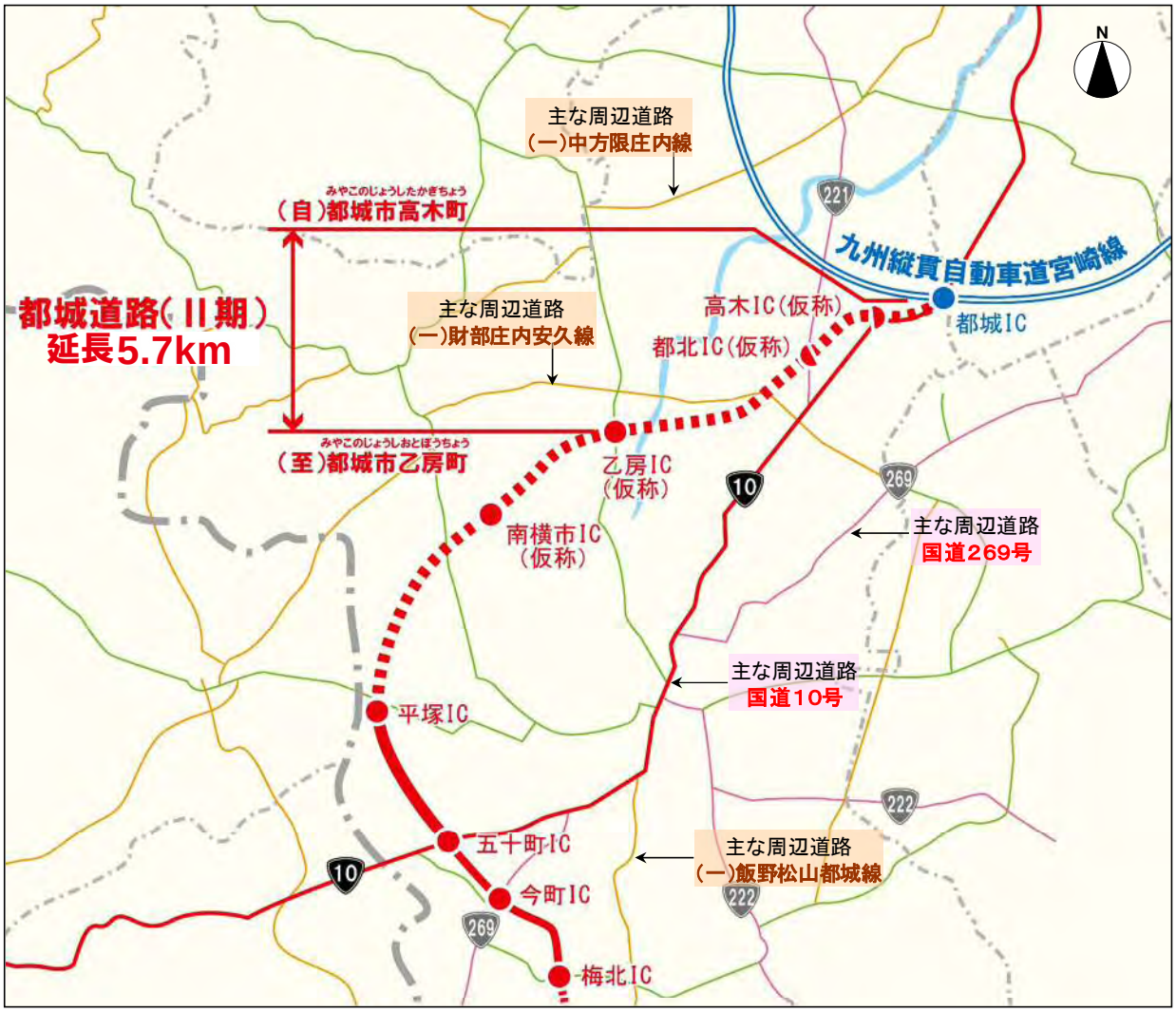
事業名：一般国道10号 都城道路（Ⅱ期）

（推計時点　R12年）（事業全体・残事業）

				整備なし(A)	整備あり(B)
①新設・改築道路 都城道路(Ⅱ期) 【バイパス区間】 ：4.8km		交通量	[台/日]	0.00	31,500
		走行時間	[分]	0.00	3.6
		走行時間費用	[億円/年]	0.00	21.12
①新設・改築道路 都城道路(Ⅱ期) 【現道拡幅区間】 ：0.9km		交通量	[台/日]	26,300	35,200
		走行時間	[分]	1.02	0.68
		走行時間費用	[億円/年]	5.01	4.47
②主な周辺道路	国道10号 ：5.6km	交通量	[台/日]	30,600	18,600
		走行時間	[分]	8.4	8.3
		走行時間費用	[億円/年]	46.55	27.86
	国道269号 ：5.5km	交通量	[台/日]	10,400	9,100
		走行時間	[分]	11	10
		走行時間費用	[億円/年]	19.39	16.75
	(一)飯野松山都城線 ：11.0km	交通量	[台/日]	2,400	1,600
		走行時間	[分]	17.2	17.2
		走行時間費用	[億円/年]	8.07	5.21
	(一)財部庄内安久線 ：4.9km	交通量	[台/日]	13,100	8,000
		走行時間	[分]	8.3	8.0
		走行時間費用	[億円/年]	20.65	12.54
	(一)中方限庄内線 ：4.8km	交通量	[台/日]	7,800	5,100
		走行時間	[分]	7.2	7.2
		走行時間費用	[億円/年]	10.63	6.93
③その他道路合計 ：5,810.1km		走行時間費用	[億円/年]	8,257.90	8,254.20

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A－B)
合計：5,847.6km	走行時間短縮便益	[億円/年]	8,368.19	8,349.09	19.10

事業名：一般国道10号 都城道路（Ⅱ期）



様式－３②

費用便益分析の条件

事業名：一般国道10号 都城道路（Ⅱ期）

（2）

項目				チェック欄
算出マニュアル		費用便益分析マニュアル （平成30年2月　国土交通省　道路局　都市局）		■
		その他		□
分析の基本的事項		分析対象期間		50年間
		社会的割引率		4%
		基準年次		令和2年
交通流推計	交通流の推計時点	1時点のみ推計		■（R12年）
		複数時点での推計		□
	推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計		■
		整備の有無のいずれかのみ推計		□ 有　□ 無
		いずれかのみの推計の場合	いずれかのみの推計とした理由を記載	
	推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 （三段階推定法）		■ （H22センサス）
		パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 （四段階推定法）		□
		その他（　　）		□
	開発交通量の考慮	無		■
		有		□
		有の場合のみ	考慮した開発交通量（トリップ数）	（　）台ﾄﾘｯﾌﾟ/日
			考慮した理由を記載	
	配分交通量の推計手法	Q－V式を用いた配分		□
		転換率式を用いた配分		□
		Q－V式と転換率式の併用による配分		■
		均衡配分（リンクパフォーマンス関数を用いた配分）		□
		簡易手法		□
		簡易手法の採択理由	小規模事業である	□
			山間部海岸部で併行道路が少ない	□
			その他（　　）	
		簡易手法の考え方（将来交通量の設定方法等）		
		その他（　　）		□
	速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定		■
		採用理由を記載	交通量が、交通容量（Qmax～Qmin）以上の路線、交通容量（Qmax～Qmin）の路線等が混在した配分結果となっているため、費用便益算出においては、速度差の生ずる「加重平均速度」を用いた。	
		最終配分の速度		□
		採用理由を記載		
		その他（　　）		□

事業名：一般国道10号 都城道路（Ⅱ期）

（3）

項目				チェック欄
便益の算定	休日交通の影響	考慮しない		■
		考慮する		□
		考慮する場合のみ	面的に考慮	□
			対象路線のみ考慮	□
			採用した休日係数	（　　）%
			休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載	
	災害等による通行止めの影響	考慮しない		■
		考慮する		□
		考慮する場合のみ	採用した通行止め日数	（　　）日
			採用した通行止め日数の考え方を記載	
			とり止め交通を考慮する	□
			とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載	
	冬期交通の影響	考慮しない		■
		考慮する		□
		考慮する場合のみ	採用した冬期日数	（　　）日
			採用した冬期日数の考え方を記載	
			冬期の走行速度と交通容量の関係	
			設定の考え方を記載	
	交通流推計の時点以外の便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定		■
		その他（　　）		□
	車種別時間価値原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用		■
		独自に設定した値を使用		□
	車種別走行経費原単位	費用便益分析マニュアルの値を使用		■
		独自に設定した値を使用		□
	交通事故減少便益算定	中央分離帯の有無を考慮		■
		中央分離帯の有無を考慮しない		□
	走行時間短縮・走行経費減少・交通事故減少以外の便益	考慮しない		■
		考慮する		□
	その他			

事業名：一般国道10号 都城道路（Ⅱ期）

（4）

項目				チェック欄
費用の算定	事業費	詳細事業計画による値を採用		□
		標準投資パターンを採用		■
		その他（　　）		□
	維持管理費	維持管理費の設定根拠を記載 当該区間を管轄する事務所における直轄国道の維持管理費実績に基づき算出		
	雪寒費	積雪地域または寒冷地域である		□
	当該道路整備が行われない場合の費用	考慮しない		■
		考慮する		□
		考慮する場合のみ	事業費を考慮	□
			維持管理費を考慮	□
			当該道路整備が行われない場合の費用を考慮した理由及び考え方を記載（対策内容、費用等）	
	その他			
4．その他				

様式－4

費用の現在価値算定表

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

単価(億円)	延長(km)	単純価値(億円)
0.30	5.7	1.69

箇所名：一般国道10号 都城道路（Ⅱ期）（事業全体）

年次	年度	割戻率	GDP デフレータ	事業費(億円) 単純価値	事業費(億円) 現在価値	維持管理費(億円) 単純価値	維持管理費(億円) 現在価値
−18年目	H 19	1.6651	105.0	0.83	1.35		
−17年目	H 20	1.6010	104.4	0.10	0.16		
−16年目	H 21	1.5395	103.0	0.33	0.50		
−15年目	H 22	1.4802	101.3	0.10	0.14		
−14年目	H 23	1.4233	99.8	0.10	0.14		
−13年目	H 24	1.3686	99.0	3.36	4.77		
−12年目	H 25	1.3159	99.0	0.96	1.31		
−11年目	H 26	1.2653	101.5	2.46	3.15		
−10年目	H 27	1.2167	103.0	5.11	6.20		
−9年目	H 28	1.1699	102.8	6.33	7.41		
−8年目	H 29	1.1249	102.9	7.04	7.91		
−7年目	H 30	1.0816	102.8	11.68	12.64		
−6年目	R 1	1.0400	102.8	22.06	22.95		
−5年目	R 2	1.0000	102.8	36.68	36.68		
−4年目	R 3	0.9615	102.8	55.22	53.09		
−3年目	R 4	0.9246	102.8	32.34	29.90		
−2年目	R 5	0.8890	102.8	20.96	18.64		
−1年目	R 6	0.8548	102.8	12.10	10.34		
部分供用	R 7	0.8219	102.8	0.91	0.75	1.15	0.94
1年目	R 8	0.7903	102.8	1.82	1.44	1.15	0.91
2年目	R 9	0.7599	102.8	6.36	4.84	1.15	0.87
3年目	R 10	0.7307	102.8	6.36	4.65	1.15	0.84
4年目	R 11	0.7026	102.8	3.43	2.41	1.15	0.80
供用開始（5年目）	R 12	0.6756	102.8			1.54	1.04
6年目	R 13	0.6496	102.8			1.54	1.00
7年目	R 14	0.6246	102.8			1.54	0.96
8年目	R 15	0.6006	102.8			1.54	0.92
9年目	R 16	0.5775	102.8			1.54	0.89
10年目	R 17	0.5553	102.8			1.54	0.85
11年目	R 18	0.5339	102.8			1.54	0.82
12年目	R 19	0.5134	102.8			1.54	0.79
13年目	R 20	0.4936	102.8			1.54	0.76
14年目	R 21	0.4746	102.8			1.54	0.73
15年目	R 22	0.4564	102.8			1.54	0.70
16年目	R 23	0.4388	102.8			1.54	0.67
17年目	R 24	0.4220	102.8			1.54	0.65
18年目	R 25	0.4057	102.8			1.54	0.62
19年目	R 26	0.3901	102.8			1.54	0.60
20年目	R 27	0.3751	102.8			1.54	0.58
21年目	R 28	0.3607	102.8			1.54	0.55
22年目	R 29	0.3468	102.8			1.54	0.53
23年目	R 30	0.3335	102.8			1.54	0.51
24年目	R 31	0.3207	102.8			1.54	0.49
25年目	R 32	0.3083	102.8			1.54	0.47
26年目	R 33	0.2965	102.8			1.54	0.46
27年目	R 34	0.2851	102.8			1.54	0.44
28年目	R 35	0.2741	102.8			1.54	0.42
29年目	R 36	0.2636	102.8			1.54	0.40
30年目	R 37	0.2534	102.8			1.54	0.39
31年目	R 38	0.2437	102.8			1.54	0.37
32年目	R 39	0.2343	102.8			1.54	0.36
33年目	R 40	0.2253	102.8			1.54	0.35
34年目	R 41	0.2166	102.8			1.54	0.33
35年目	R 42	0.2083	102.8			1.54	0.32
36年目	R 43	0.2003	102.8			1.54	0.31
37年目	R 44	0.1926	102.8			1.54	0.30
38年目	R 45	0.1852	102.8			1.54	0.28
39年目	R 46	0.1780	102.8			1.54	0.27
40年目	R 47	0.1712	102.8			1.54	0.26
41年目	R 48	0.1646	102.8			1.54	0.25
42年目	R 49	0.1583	102.8			1.54	0.24
43年目	R 50	0.1522	102.8			1.54	0.23
44年目	R 51	0.1463	102.8			1.54	0.22
45年目	R 52	0.1407	102.8			1.54	0.22
46年目	R 53	0.1353	102.8			1.54	0.21
47年目	R 54	0.1301	102.8			1.54	0.20
48年目	R 55	0.1251	102.8			1.54	0.19
49年目	R 56	0.1203	102.8	−19.06	−2.29	1.54	0.18
合計				217.57	229.07	74.86	26.72

単純事業費計	236.63	74.86

注1）事業費の投資パターンは、概略事業計画による値を採用したものであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。
このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。
注2）評価対象期間最終年において、用地残存価値（割引後の用地費）を控除している。

様式－４

費用の現在価値算定表

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

単価(億円)	延長(km)	単純価値(億円)
0.30	5.7	1.69

箇所名：一般国道10号 都城道路（Ⅱ期）（残事業）

年次	年度	割戻率	GDP ﾃﾞﾌﾚｰﾀ	事業費（億円）		維持管理費（億円）	
				単純価値	現在価値	単純価値	現在価値
−4年目	R 3	0.9615	102.8	55.22	53.09		
−3年目	R 4	0.9246	102.8	32.34	29.90		
−2年目	R 5	0.8890	102.8	20.96	18.64		
−1年目	R 6	0.8548	102.8	12.10	10.34		
部分供用	R 7	0.8219	102.8	0.91	0.75	1.15	0.94
1年目	R 8	0.7903	102.8	1.82	1.44	1.15	0.91
2年目	R 9	0.7599	102.8	6.36	4.84	1.15	0.87
3年目	R 10	0.7307	102.8	6.36	4.65	1.15	0.84
4年目	R 11	0.7026	102.8	3.43	2.41	1.15	0.80
供用開始（5年目）	R 12	0.6756	102.8			1.54	1.04
6年目	R 13	0.6496	102.8			1.54	1.00
7年目	R 14	0.6246	102.8			1.54	0.96
8年目	R 15	0.6006	102.8			1.54	0.92
9年目	R 16	0.5775	102.8			1.54	0.89
10年目	R 17	0.5553	102.8			1.54	0.85
11年目	R 18	0.5339	102.8			1.54	0.82
12年目	R 19	0.5134	102.8			1.54	0.79
13年目	R 20	0.4936	102.8			1.54	0.76
14年目	R 21	0.4746	102.8			1.54	0.73
15年目	R 22	0.4564	102.8			1.54	0.70
16年目	R 23	0.4388	102.8			1.54	0.67
17年目	R 24	0.4220	102.8			1.54	0.65
18年目	R 25	0.4057	102.8			1.54	0.62
19年目	R 26	0.3901	102.8			1.54	0.60
20年目	R 27	0.3751	102.8			1.54	0.58
21年目	R 28	0.3607	102.8			1.54	0.55
22年目	R 29	0.3468	102.8			1.54	0.53
23年目	R 30	0.3335	102.8			1.54	0.51
24年目	R 31	0.3207	102.8			1.54	0.49
25年目	R 32	0.3083	102.8			1.54	0.47
26年目	R 33	0.2965	102.8			1.54	0.46
27年目	R 34	0.2851	102.8			1.54	0.44
28年目	R 35	0.2741	102.8			1.54	0.42
29年目	R 36	0.2636	102.8			1.54	0.40
30年目	R 37	0.2534	102.8			1.54	0.39
31年目	R 38	0.2437	102.8			1.54	0.37
32年目	R 39	0.2343	102.8			1.54	0.36
33年目	R 40	0.2253	102.8			1.54	0.35
34年目	R 41	0.2166	102.8			1.54	0.33
35年目	R 42	0.2083	102.8			1.54	0.32
36年目	R 43	0.2003	102.8			1.54	0.31
37年目	R 44	0.1926	102.8			1.54	0.30
38年目	R 45	0.1852	102.8			1.54	0.28
39年目	R 46	0.1780	102.8			1.54	0.27
40年目	R 47	0.1712	102.8			1.54	0.26
41年目	R 48	0.1646	102.8			1.54	0.25
42年目	R 49	0.1583	102.8			1.54	0.24
43年目	R 50	0.1522	102.8			1.54	0.23
44年目	R 51	0.1463	102.8			1.54	0.22
45年目	R 52	0.1407	102.8			1.54	0.22
46年目	R 53	0.1353	102.8			1.54	0.21
47年目	R 54	0.1301	102.8			1.54	0.20
48年目	R 55	0.1251	102.8			1.54	0.19
49年目	R 56	0.1203	102.8	−4.96	−0.60	1.54	0.18
合計				134.54	125.46	74.86	26.72

単純事業費計	139.50	74.86

注1）事業費の投資パターンは、概略事業計画による値を採用したものであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。
このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。
注2）評価対象期間最終年において、用地残存価値（割引後の用地費）を控除している。

様式－5

便益の現在価値算定表

箇所名：一般国道10号 都城道路（Ⅱ期）（事業全体・残事業）

年次	年度（基準年）	総走行台キロの年次別伸び率 南九州ブロック				割戻率	GDP ﾃﾞﾌﾚｰﾀ	走行時間短縮便益（億円）					走行経費減少便益（億円）					事故減少便益（億円）		合計（億円）	
		乗用車類	小型貨物	普通貨物	全車	(A)		乗用車類	小型貨物	普通貨物	① 計	現在価値 ①×(A)	乗用車類	小型貨物	普通貨物	② 計	現在価値 (A)×②	③	現在価値 ③×(A)	便益合計 (①～③)	現在価値 割引率4%
部分供用	R 7	0.99725	0.98549	1.00412	0.99559	0.8219	102.8	3.26	1.54	3.73	8.53	7.01	4.60	1.08	2.21	7.88	6.48	2.35	1.93	18.76	15.42
1年目	R 8	0.99724	0.98528	1.00411	0.99557	0.7903	102.8	3.25	1.52	3.74	8.51	6.73	4.58	1.06	2.22	7.86	6.21	2.34	1.85	18.71	14.79
2年目	R 9	0.99723	0.98506	1.00409	0.99555	0.7599	102.8	3.24	1.49	3.76	8.49	6.45	4.57	1.04	2.23	7.84	5.96	2.33	1.77	18.67	14.19
3年目	R 10	0.99723	0.98483	1.00407	0.99553	0.7307	102.8	3.23	1.47	3.78	8.48	6.19	4.56	1.03	2.24	7.82	5.72	2.32	1.70	18.62	13.61
4年目	R 11	0.99722	0.98460	1.00406	0.99551	0.7026	102.8	3.22	1.45	3.79	8.46	5.95	4.55	1.01	2.25	7.80	5.48	2.31	1.62	18.58	13.05
供用開始（5年目）	R 12	0.99148	0.99134	0.99776	0.99218	0.6756	102.8	6.50	4.47	8.13	19.10	12.90	5.40	1.09	1.39	7.88	5.33	5.02	3.39	32.00	21.62
6年目	R 13	0.99141	0.99127	0.99775	0.99212	0.6496	102.8	6.44	4.43	8.11	18.99	12.33	5.35	1.08	1.39	7.82	5.08	4.98	3.23	31.79	20.65
7年目	R 14	0.99133	0.99119	0.99775	0.99206	0.6246	102.8	6.39	4.39	8.09	18.87	11.79	5.30	1.07	1.39	7.77	4.85	4.94	3.08	31.58	19.72
8年目	R 15	0.99126	0.99111	0.99774	0.99200	0.6006	102.8	6.33	4.35	8.07	18.76	11.27	5.26	1.06	1.39	7.71	4.63	4.90	2.94	31.37	18.84
9年目	R 16	0.99118	0.99103	0.99774	0.99193	0.5775	102.8	6.28	4.32	8.06	18.65	10.77	5.21	1.05	1.38	7.65	4.42	4.86	2.81	31.16	17.99
10年目	R 17	0.99110	0.99095	0.99773	0.99187	0.5553	102.8	6.22	4.28	8.04	18.54	10.29	5.17	1.05	1.38	7.59	4.21	4.82	2.68	30.95	17.18
11年目	R 18	0.99102	0.99087	0.99773	0.99180	0.5339	102.8	6.17	4.24	8.02	18.43	9.84	5.12	1.04	1.38	7.53	4.02	4.78	2.55	30.74	16.41
12年目	R 19	0.99094	0.99078	0.99772	0.99173	0.5134	102.8	6.11	4.20	8.00	18.31	9.40	5.07	1.03	1.37	7.47	3.84	4.74	2.43	30.53	15.67
13年目	R 20	0.99086	0.99070	0.99772	0.99166	0.4936	102.8	6.06	4.16	7.98	18.20	8.98	5.03	1.02	1.37	7.41	3.66	4.70	2.32	30.32	14.97
14年目	R 21	0.99077	0.99061	0.99771	0.99159	0.4746	102.8	6.00	4.12	7.97	18.09	8.59	4.98	1.01	1.37	7.36	3.49	4.66	2.21	30.11	14.29
15年目	R 22	0.99069	0.99052	0.99771	0.99152	0.4564	102.8	5.95	4.08	7.95	17.98	8.20	4.94	1.00	1.36	7.30	3.33	4.62	2.11	29.90	13.65
16年目	R 23	0.99060	0.99043	0.99770	0.99145	0.4388	102.8	5.89	4.05	7.93	17.86	7.84	4.89	0.99	1.36	7.24	3.18	4.59	2.01	29.69	13.03
17年目	R 24	0.99051	0.99034	0.99770	0.99138	0.4220	102.8	5.83	4.01	7.91	17.75	7.49	4.84	0.98	1.36	7.18	3.03	4.55	1.92	29.48	12.44
18年目	R 25	0.99042	0.99024	0.99769	0.99130	0.4057	102.8	5.78	3.97	7.89	17.64	7.16	4.80	0.97	1.35	7.12	2.89	4.51	1.83	29.27	11.87
19年目	R 26	0.99033	0.99015	0.99769	0.99122	0.3901	102.8	5.72	3.93	7.87	17.53	6.84	4.75	0.96	1.35	7.06	2.76	4.47	1.74	29.06	11.34
20年目	R 27	0.99023	0.99005	0.99768	0.99115	0.3751	102.8	5.67	3.89	7.86	17.41	6.53	4.71	0.95	1.35	7.00	2.63	4.43	1.66	28.85	10.82
21年目	R 28	0.99014	0.98995	0.99768	0.99107	0.3607	102.8	5.61	3.85	7.84	17.30	6.24	4.66	0.94	1.34	6.95	2.51	4.39	1.58	28.64	10.33
22年目	R 29	0.99004	0.98985	0.99767	0.99099	0.3468	102.8	5.56	3.81	7.82	17.19	5.96	4.61	0.93	1.34	6.89	2.39	4.35	1.51	28.43	9.86
23年目	R 30	0.98994	0.98974	0.99766	0.99091	0.3335	102.8	5.50	3.77	7.80	17.08	5.69	4.57	0.92	1.34	6.83	2.28	4.31	1.44	28.22	9.41
24年目	R 31	0.98984	0.98964	0.99766	0.99082	0.3207	102.8	5.45	3.74	7.78	16.97	5.44	4.52	0.91	1.34	6.77	2.17	4.27	1.37	28.01	8.98
25年目	R 32	0.98973	0.98953	0.99765	0.99074	0.3083	102.8	5.39	3.70	7.76	16.85	5.20	4.48	0.90	1.33	6.71	2.07	4.23	1.31	27.80	8.57
26年目	R 33	0.98962	0.98942	0.99765	0.99065	0.2965	102.8	5.34	3.66	7.75	16.74	4.96	4.43	0.89	1.33	6.65	1.97	4.19	1.24	27.59	8.18
27年目	R 34	0.98952	0.98930	0.99764	0.99056	0.2851	102.8	5.28	3.62	7.73	16.63	4.74	4.38	0.88	1.33	6.59	1.88	4.15	1.18	27.38	7.80
28年目	R 35	0.98940	0.98919	0.99764	0.99047	0.2741	102.8	5.23	3.58	7.71	16.52	4.53	4.34	0.87	1.32	6.54	1.79	4.12	1.13	27.17	7.45
29年目	R 36	0.98929	0.98907	0.99763	0.99038	0.2636	102.8	5.17	3.54	7.69	16.40	4.32	4.29	0.87	1.32	6.48	1.71	4.08	1.07	26.96	7.10
30年目	R 37	0.98917	0.98895	0.99763	0.99029	0.2534	102.8	5.11	3.50	7.67	16.29	4.13	4.25	0.86	1.32	6.42	1.63	4.04	1.02	26.75	6.78
31年目	R 38	0.98906	0.98883	0.99762	0.99019	0.2437	102.8	5.06	3.46	7.66	16.18	3.94	4.20	0.85	1.31	6.36	1.55	4.00	0.97	26.54	6.47
32年目	R 39	0.98894	0.98870	0.99761	0.99009	0.2343	102.8	5.00	3.43	7.64	16.07	3.76	4.15	0.84	1.31	6.30	1.48	3.96	0.93	26.33	6.17
33年目	R 40	0.98881	0.98857	0.99761	0.99000	0.2253	102.8	4.95	3.39	7.62	15.95	3.59	4.11	0.83	1.31	6.24	1.41	3.92	0.88	26.12	5.88
34年目	R 41	0.98869	0.98844	0.99760	0.98989	0.2166	102.8	4.89	3.35	7.60	15.84	3.43	4.06	0.82	1.30	6.18	1.34	3.88	0.84	25.91	5.61
35年目	R 42	0.98856	0.98830	0.99760	0.98979	0.2083	102.8	4.84	3.31	7.58	15.73	3.28	4.02	0.81	1.30	6.13	1.28	3.84	0.80	25.70	5.35
36年目	R 43	0.98842	0.98816	0.99759	0.98969	0.2003	102.8	4.78	3.27	7.56	15.62	3.13	3.97	0.80	1.30	6.07	1.22	3.80	0.76	25.49	5.10
37年目	R 44	0.98829	0.98802	0.99759	0.98958	0.1926	102.8	4.73	3.23	7.55	15.51	2.99	3.92	0.79	1.29	6.01	1.16	3.76	0.72	25.28	4.87
38年目	R 45	0.98815	0.98788	0.99758	0.98947	0.1852	102.8	4.67	3.19	7.53	15.39	2.85	3.88	0.78	1.29	5.95	1.10	3.72	0.69	25.07	4.64
39年目	R 46	0.98801	0.98773	0.99757	0.98936	0.1780	102.8	4.62	3.15	7.51	15.28	2.72	3.83	0.77	1.29	5.89	1.05	3.68	0.66	24.86	4.43
40年目	R 47	0.98786	0.98758	0.99757	0.98924	0.1712	102.8	4.56	3.12	7.49	15.17	2.60	3.79	0.76	1.29	5.83	1.00	3.64	0.62	24.65	4.22
41年目	R 48	0.98771	0.98742	0.99756	0.98913	0.1646	102.8	4.51	3.08	7.47	15.06	2.48	3.74	0.75	1.28	5.77	0.95	3.61	0.59	24.44	4.02
42年目	R 49	0.98756	0.98726	0.99756	0.98901	0.1583	102.8	4.45	3.04	7.45	14.94	2.37	3.69	0.74	1.28	5.72	0.90	3.57	0.56	24.23	3.83
43年目	R 50	0.98740	0.98710	0.99755	0.98888	0.1522	102.8	4.39	3.00	7.44	14.83	2.26	3.65	0.73	1.28	5.66	0.86	3.53	0.54	24.02	3.66
44年目	R 51	0.98724	0.98693	0.99754	0.98876	0.1463	102.8	4.34	2.96	7.42	14.72	2.15	3.60	0.72	1.27	5.60	0.82	3.49	0.51	23.81	3.48
45年目	R 52	0.98708	0.98675	0.99754	0.98863	0.1407	102.8	4.28	2.92	7.40	14.61	2.06	3.56	0.71	1.27	5.54	0.78	3.45	0.49	23.60	3.32
46年目	R 53	0.98691	0.98658	0.99753	0.98850	0.1353	102.8	4.23	2.88	7.38	14.49	1.96	3.51	0.70	1.27	5.48	0.74	3.41	0.46	23.39	3.16
47年目	R 54	0.98673	0.98639	0.99753	0.98837	0.1301	102.8	4.17	2.85	7.36	14.38	1.87	3.47	0.70	1.26	5.42	0.71	3.37	0.44	23.18	3.02
48年目	R 55	0.98656	0.98621	0.99752	0.98823	0.1251	102.8	4.12	2.81	7.35	14.27	1.79	3.42	0.69	1.26	5.37	0.67	3.33	0.42	22.97	2.87
49年目	R 56	0.98637	0.98601	0.99751	0.98809	0.1203	102.8	4.06	2.77	7.33	14.16	1.70	3.37	0.68	1.26	5.31	0.64	3.29	0.40	22.76	2.74
合計								253.83	170.34	366.57	790.75	284.69	220.15	45.02	70.81	335.98	131.22	198.60	72.95	1,325.32	488.86

参考様式1

全体事業費内訳

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道10号	都城道路（Ⅱ期）	4	5.7km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額（百万円）	備考
①工事費					18,974	
	改良費				9,176	
		土工	m3	911,936	1,923	切土（99,490m3）、盛土（720,476+91,970m3）
		軟弱地盤改良工	m3	141,048	740	
		法面工	m2	66,720	535	切土法面、盛土法面
		擁壁工	式	1	735	擁壁工、石・ブロック積擁壁等
		管渠工	m	9,499	972	
		函渠工	m	684	2,411	
		排水工	m	41,408	941	
		中央分離帯工	m	5,149	60	
		雑工	式	1	859	標識工、防護柵工、道路付属物工等
	橋梁費				8,638	
		100m以上	m	265	3,792	長大橋　1橋
		100m未満	m	327	4,846	中小橋6橋、跨道橋　1橋、跨線橋　1橋
	トンネル費					
		NATM	m			
		シールド	m			
	IC・JCT費					
		IC	箇所			
		JCT	箇所			
	舗装費				1,160	
		車道舗装	m2	117,637	1,160	縁石工含む
		歩道舗装	m2			
	付帯施設費					
		交通管理施設工	式			
		遮音壁	m			
②用地及補償費					4,863	
	用地費		m2	258,731	1,906	
		宅地	m2	39,889	907	
		田畑	m2	216,889	992	
		山林・原野	m2	1,953	7	
		その他				
	補償費		式	1	2,957	
③間接経費			式	1	1,927	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費等
全体事業費					25,764	

【単価等について】

○工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近接事業箇所の実績単価を使用

○用地補償費算出にあたっては、近接事業箇所の直近実績単価を使用

参考様式1

残事業費内訳

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道10号	都城道路（Ⅱ期）	4	5.7km

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額（百万円）	備考
①工事費					13,690	
	改良費				6,796	
		土工	m3	871,912	1,505	切土（95,527m3）、盛土（776,385m3）
		軟弱地盤改良工	m3	136,038	542	
		法面工	m2	66,720	530	切土法面、盛土法面
		擁壁工	式	1	693	擁壁工、石・ブロック積擁壁等
		管渠工	m	9,499	972	
		函渠工	m	416	815	
		排水工	m	32,738	870	
		中央分離帯工	m	5,149	60	
		雑工	式	1	809	標識工、防護柵工、道路付属物工等
	橋梁費				5,734	
		100m以上	m	265	2,798	長大橋　1橋
		100m未満	m	327	2,936	中小橋6橋、跨道橋　1橋、跨線橋　1橋
	トンネル費					
		NATM	m			
		シールド	m			
	IC・JCT費					
		IC	箇所			
		JCT	箇所			
	舗装費				1,160	
		車道舗装	m2	117,637	1,160	縁石工含む
		歩道舗装	m2			
	付帯施設費					
		交通管理施設工	式			
		遮音壁	m			
②用地及補償費					1,130	
	用地費		m2	14,838	496	
		宅地	m2	14,832	225	
		田畑	m2	162,691	270	
		山林・原野	m2	1,287	1	
		その他				
	補償費		式	1	634	
③間接経費			式	1	476	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費等
全体事業費					15,296	

【単価等について】

○工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近接事業箇所の実績単価を使用

○用地補償費算出にあたっては、近接事業箇所の直近実績単価を使用

参考様式2

完成 4 車線における維持管理費の内訳

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道10号	都城道路（Ⅱ期）	4	5.7km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額（百万円）	備考
維持費	km	5.7	1,100	巡回、清掃、除草、除雪等
修繕費	式	1	7,350	路面補修、構造物の点検・補修等
その他	式			
維持管理費合計			8,450	

【単価等について】

〇維持管理費は、当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費に基づき算出。

暫定 2 車線における維持管理費の内訳

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道10号	都城道路（Ⅱ期）	2	5.7km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額（百万円）	備考
維持費	km	5.7	1,100	巡回、清掃、除草、除雪等
修繕費	式	1	5,200	路面補修、構造物の点検・補修等
その他	式			
維持管理費合計			6,300	

【単価等について】

〇維持管理費は、当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費に基づき算出。

参考様式3

<table>
<tr><td>項目</td><td colspan="5">前回評価
（H29年度）</td><td colspan="5">今回評価
（R2年度）</td><td>主な変動要因
（現在価値）</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td colspan="5">延長5．7km
車線数4車線</td><td colspan="5">延長5．7km
車線数4車線</td><td>－</td></tr>
<tr><td>事業費</td><td colspan="5">160億円</td><td colspan="5">258億円</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="4">事業
全体</td><td>B/C</td><td colspan="4">2．6</td><td>B/C</td><td colspan="4">1．9</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">便益B</td><td rowspan="3">343
億円</td><td>走行時間短縮便益</td><td>195億円</td><td rowspan="3">便益B</td><td rowspan="3">489
億円</td><td>走行時間短縮便益</td><td>285億円</td><td rowspan="3">・基準年の変更（H26⇒R2）による増
・供用年延期（R10⇒R11）による減
・将来交通需要推計手法の見直しによる増</td></tr>
<tr><td>走行経費減少便益</td><td>93億円</td><td>走行経費減少便益</td><td>131億円</td></tr>
<tr><td>交通事故減少便益</td><td>55億円</td><td>交通事故減少便益</td><td>73億円</td></tr>
<tr><td>費用C</td><td>130
億円</td><td>事業費</td><td>115億円</td><td>費用C</td><td>256
億円</td><td>事業費</td><td>229億円</td><td rowspan="2">・基準年の変更（H26⇒R2）による増
・事業費の変更による増
・維持管理費単価の見直しによる増</td></tr>
<tr><td colspan="2">維持管理費</td><td>15億円</td><td colspan="2">維持管理費</td><td>27億円</td></tr>
<tr><td rowspan="4">残事業</td><td>B/C</td><td colspan="4">2．8</td><td>B/C</td><td colspan="4">3．2</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">便益B</td><td rowspan="3">343
億円</td><td>走行時間短縮便益</td><td>195億円</td><td rowspan="3">便益B</td><td rowspan="3">489
億円</td><td>走行時間短縮便益</td><td>285億円</td><td rowspan="3">・基準年の変更（H26⇒R2）による増
・供用年延期（R10⇒R11）による減
・将来交通需要推計手法の見直しによる増</td></tr>
<tr><td>走行経費減少便益</td><td>93億円</td><td>走行経費減少便益</td><td>131億円</td></tr>
<tr><td>交通事故減少便益</td><td>55億円</td><td>交通事故減少便益</td><td>73億円</td></tr>
<tr><td>費用C</td><td>121
億円</td><td>事業費</td><td>107億円</td><td>費用C</td><td>152
億円</td><td>事業費</td><td>125億円</td><td rowspan="2">・基準年の変更（H26⇒R2）による増
・事業費の変更による増
・維持管理費単価の見直しによる増</td></tr>
<tr><td colspan="2">維持管理費</td><td>15億円</td><td colspan="2">維持管理費</td><td>27億円</td></tr>
</table>

※前回評価は前々回評価結果（H26年度）を用いて記載したもの